

国立国語研究所学術情報リポジトリ

国立国語研究所研究活動一覧（平成12年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000344

国立国語研究所
研究活動一覽
(平成12年度)

Annual Report of Research Activities

The National Institute for Japanese Language

April 2000 - March 2001

国立国語研究所

平成 14 年 5 月 23 日

研究職員各位

『国立国語研究所研究活動一覧（平成 12 年度）』
作成委員会

『国立国語研究所研究活動一覧（平成 12 年度）』に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- (1) iv ページ及び v ページ： 研究機構
59 ページ： 平成 12 年度非常勤研究員等一覧 言語行動研究部
15 ページ： 前川喜久雄 2E
誤 菊地英明
正 菊池英明
- (2) 26 ページ： 熊谷康雄 2F
誤 『国語学研究文献総索引』（国語学会・国立国語研究）
正 『国語学研究文献総索引』（国語学会・国立国語研究所）
- (3) 36 ページ： 山田貞雄 2A
誤 『新「ことば」シリーズ 13「ことば」を調べる考える』，問答 5 件，2001 年 3 月
正 『新「ことば」シリーズ 14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』，
解説 3 件，問答 4 件，2001 年 3 月
- (4) 36 ページ： 小椋秀樹 2A
誤 『新「ことば」シリーズ 13「ことば」を調べる考える』，解説 1 件，問答 1 件，
2001 年 3 月
正 『新「ことば」シリーズ 13「ことば」を調べる考える』，解説 1 件，2001 年 3 月
『新「ことば」シリーズ 14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』，
問答 1 件，2001 年 3 月
- (5) 38 ページ： 柳澤好昭 2A
誤 『新「ことば」シリーズ 13「ことば」を調べる考える』，解説 1 件，問答 1 件，
2001 年 3 月
正 『新「ことば」シリーズ 14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』，
問答 2 件，2001 年 3 月
- (6) 42 ページ： 井上 優 2A
誤 『新「ことば」シリーズ 13「ことば」を調べる考える』，解説 1 件，問答 2 件，
2001 年 3 月
正 『新「ことば」シリーズ 13「ことば」を調べる考える』，解説 1 件，2001 年 3 月
『新「ことば」シリーズ 14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』，
問答 2 件，2001 年 3 月
- (7) 61 ページ： 平成 12 年度外国人研究員等受入一覧
誤 パトリシア・J・ウエッツエル
正 パトリシア・J・ウエッツエル
- (8) 61 ページ： 平成 12 年度外国人研究員等受入一覧
誤 車 口京
正 車 峴京
- (9) 68 ページの「平成 12 年度国立国語研究所の刊行物」一覧の「その他」として、以下の 3 件が
抜けていました。ご追加ください。
『白書，広報誌等における外来語の実態 本編』 平成 12 年 5 月
『白書，広報誌等における外来語の実態 資料編』 平成 12 年 5 月
『「国語に関する世論調査」問題別分析報告書』 平成 12 年 5 月

国立国語研究所
研究活動一覽
(平成12年度)

Annual Report of Research Activities

The National Institute for Japanese Language

April 2000 - March 2001

『国立国語研究所研究活動一覧（平成12年度）』について

国立国語研究所では平成7から9年にかけて『国立国語研究所研究発表資料集』を作成しました。平成10年度からは、その機能を整理・継承する形で『国立国語研究所研究活動一覧』を作成しています。本資料は、その平成12年度版です。

本資料は、(1)研究職員の研究活動を所内外に公表する情報公開のための資料とすること、(2)外部評価のための資料とすること、を目的に作成したものです。当該期間における研究職員の成果物である報告書や研究論文等の書誌情報の一覧とともに、個々の研究職員が研究所で行っている研究・事業の課題名、研究所運営に関わるさまざまな業務などを示すことにより、研究職員がどのような研究活動を行っているか、その全体像を広く知っていただくことを企図したものです。なお、研究論文等の具体的内容（本文）につきましては、掲載雑誌等を別途ご参照くださるようお願いします。

本資料の巻末には、研究部会議（研究職員による研究所内部の会議）における研究発表、所内の委員会ならびに委員、見学者、平成12年度研究所刊行物などについて、それぞれの一覧を掲載しています。

凡 例

- ・ 平成12年度の研究機構における部を単位として、常勤、及び常勤に準ずる研究職員の研究活動を示しています。
- ・ 平成12年4月1日以降に職員になった者については、採用日から平成13年3月までを対象期間としています。
- ・ 研究職員によっては、特定の欄が設けられていないことがありますが、これは該当する情報がなかったことを示しています。

※ この一覧に挙げたもののほかに所員全員で対応しているものに、ことばの質問・問い合わせ・見学者への対応などがあります。

※ この一覧は、『国立国語研究所研究活動一覧』作成委員会が、基本的に各研究職員から寄せられた情報をもとに編集しました。個々人の判断などで、必ずしも網羅的ではない面や不統一があります。利用にあたってはその点にご留意ください。

目次

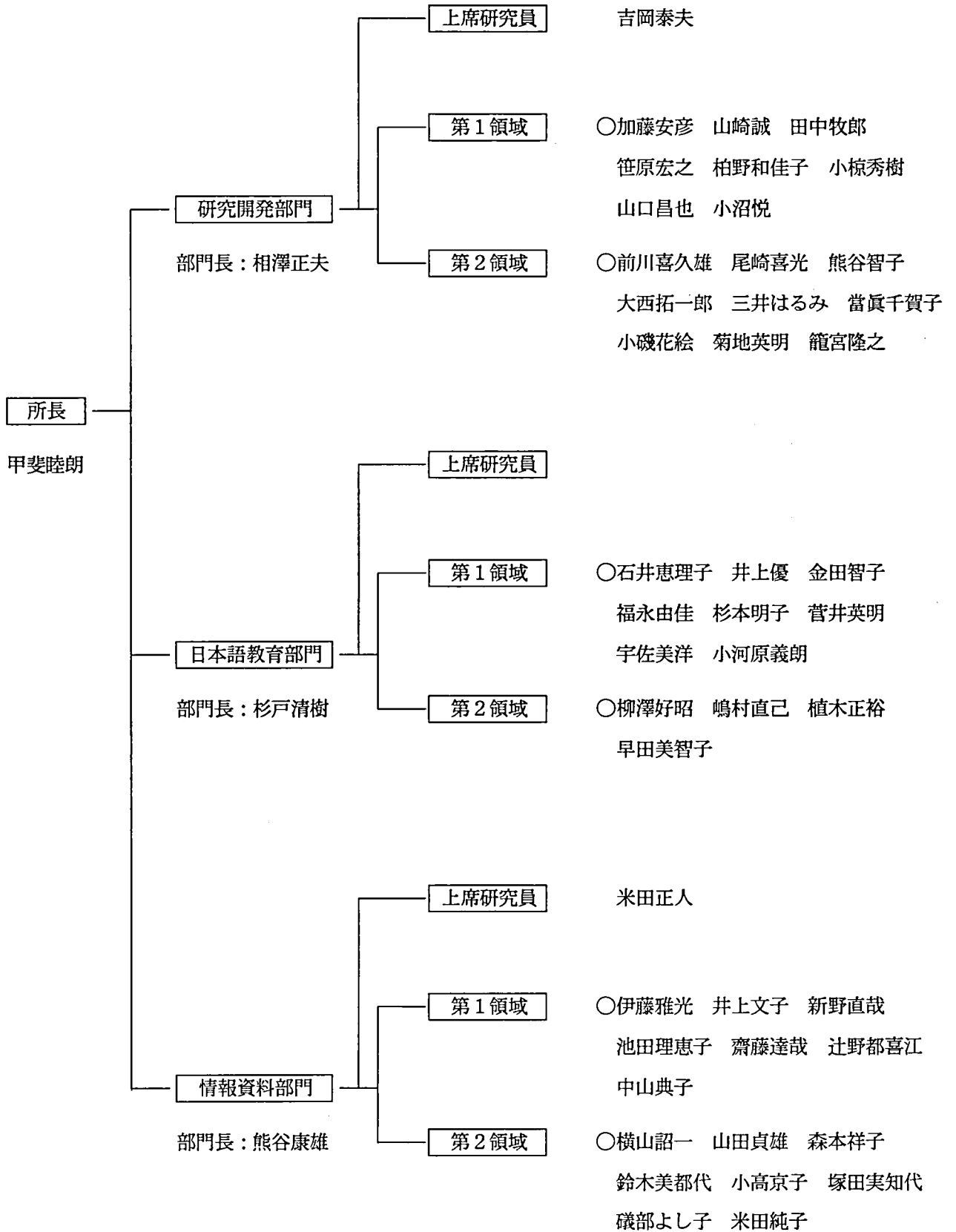
『国立国語研究所研究活動一覧（平成12年度）』について

凡 例

研究機構

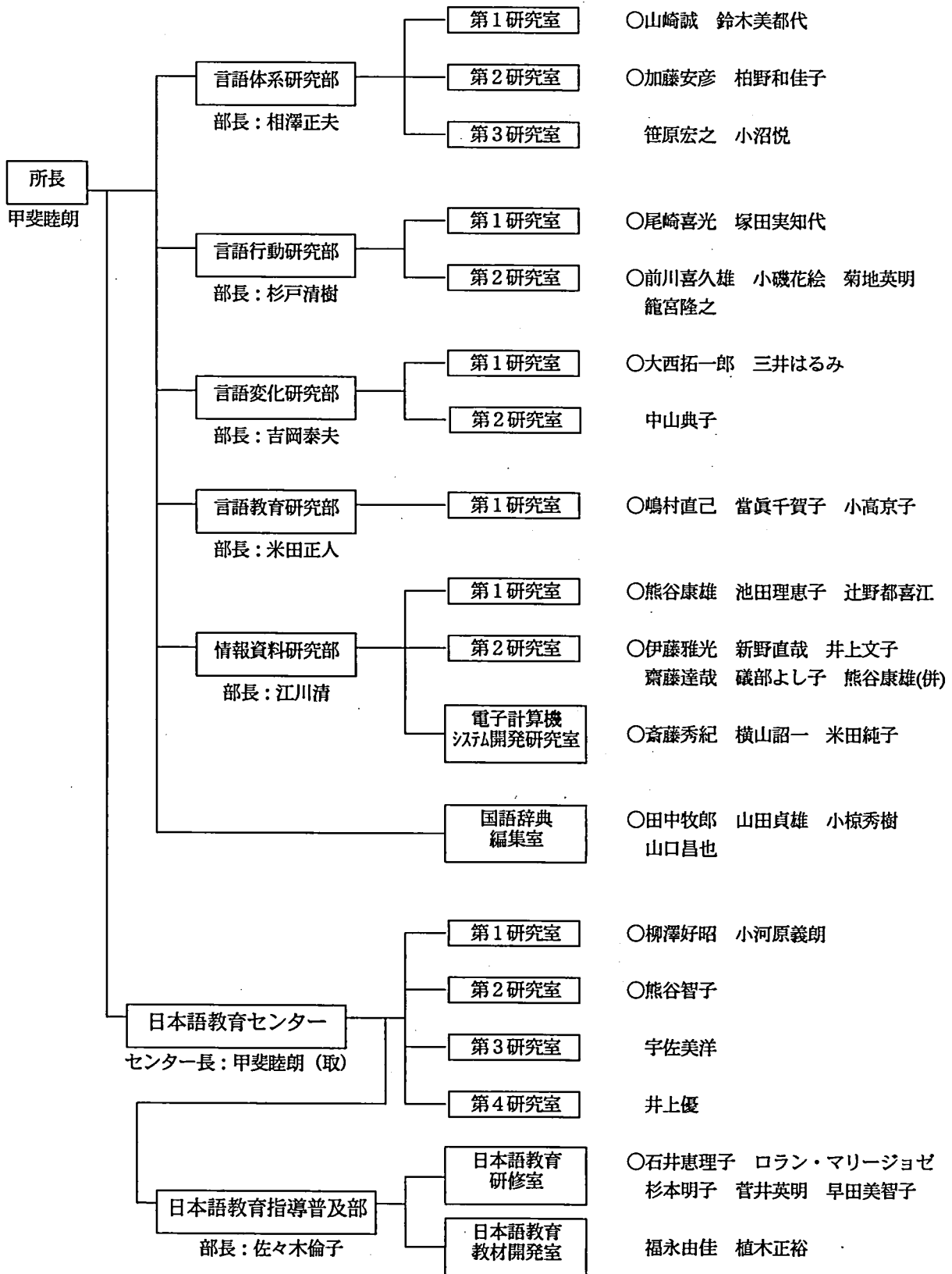
平成12年度研究活動一覧	3
所長	3
言語体系研究部	5
言語行動研究部	12
言語変化研究部	19
言語教育研究部	23
情報資料研究部	26
国語辞典編集室	35
日本語教育センター	38
日本語教育センター・日本語教育指導普及部	44
平成12年度研究部会議・研究発表一覧	53
平成12年度所内委員会委員一覧	55
平成12年度見学者一覧	57
平成12年度招へい研究員一覧	58
平成12年度非常勤研究員等一覧	59
平成12年度外国人研究員等受入一覧	61
平成12年度外国出張一覧	62
平成12年度国立国語研究所刊行物一覧	67

研究機構 (平成14年1月1日現在)



(注) ○印は領域長

研究機構 (平成13年1月1日現在)



(注) ○印は室長

平成12年度
研究活動一覽

所長

甲斐睦朗

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語研の窓』2件

C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 「伝え合う力が育つ国語教室 1-4」, 『実践国語研究』 No.207, 209, 211, 213, pp.120-121, 明治図書出版, 2000年5月-11月
- 「「あざやかな退任」現実と対峙する生き方」, 共同通信社配信, 2000年7月
- 「特別連載「言葉をたずねて」第20回「日本人のとまどい」—英語行動を世界的な標準として受け入れた場合」, 『週刊文教ニュース』 No.1584, pp.46-47, 文教ニュース社, 2000年7月
- 「論説 これからの国語科教育と基礎・基本」, 『中等教育資料』 Vol.49 No.16, pp.10-15, 大日本図書, 2000年10月
- 「言葉と人間性の相互育成関係」, 『弘道』 Vol.108 No.1009, pp.11-15, 社団法人日本弘道会, 2000年12月
- 「国語国字の問題を後退させない」, 『日本語学』 Vol.20 No.1, pp.62-63, 明治書院, 2001年1月
- 「国語教育と日本語教育の連携」, 『国語科教育 第四十九集』, pp.6-7, 全国大学国語教育学会, 2001年3月
- 「日本語教育に占める文法研究の位置」, 『日本語学』 Vol.20 No.3, pp.11-15, 明治書院, 2001年3月

E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「国語教育学研究の課題と展望—本学会50周年を記念して—」シンポジウム, 『国語教育研究 第98回大会研究発表要旨集』, 全国大学国語教育学会, 2000年8月
- 「国語教育と日本語教育の連携の可能性」, 『国語科教育研究 第99回大会研究発表要旨集』, pp.176-179, 全国大学国語教育学会, 2000年10月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 座談会司会「新「ことば」シリーズ13「ことば」を調べる考える」

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 旺文社全国学芸科学コンクール最終審査委員会委員
- 科学研究費分析調査委員会ワーキング・グループ委員
- 学術審議会科学研究費分科会審査第一部会人文・社会系小委員会委員
- 学術審議会学術用語分科会専門委員
- 教育課程実施状況調査研究会委員
- 国語審議会委員(第3委員会)
- 国際交流基金日本語国際センター事業協力委員会委員
- 国際交流基金北京日本学研究中心協働委員会委員
- 国文学研究資料館評議員会評議員
- 財団法人教育研究振興会評議員

- 財団法人博報児童教育振興会博報賞審査委員会委員長
- 社団法人国際日本語普及協会評議員会評議員
- 日本貿易振興会ビジネス日本語能力テスト協力機関会議委員
- 農林水産省命名登録審査会委員

イ. 学会活動

- 国語学会評議員
- 全国大学国語教育学会理事
- 表現学会理事

5 その他

- 「日本語・過去半世紀から次の時代へ」NHK 放送研修センター創立 15 周年記念シンポジウム, 千代田放送会館, 2000 年 6 月
- 「読書の楽しさを知るきっかけになってほしいですね」光村ライブラリー通信対談, 光村図書出版, 2001 年 3 月

言語体系研究部

相澤正夫 (部長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 現代雑誌 200 万字言語調査
- 日本人の話しことばに関する総合的研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 中野洋, 相澤正夫, 他: 『白書, 広報紙等における外来語の実態 (本編・資料編)』, 2000 年 5 月
- 吉岡泰夫, 相澤正夫, 他: 『国立国語研究所ことばビデオ ことば探検・ことば発見』, 2001 年 3 月
- 吉岡泰夫, 相澤正夫, 他: 『国立国語研究所ことばビデオ ことば探検・ことば発見 一解説書一』, 2001 年 3 月
- 前川喜久雄, 相澤正夫, 他: 『音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究』 (科学研究費補助金 基盤研究 (B)(2) 研究成果報告書), 2001 年 3 月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「くぎり符号の用い方」, 『日本医事新報』 No.3962, pp.173-174, 2000 年 4 月
- 「琉球方言の音声 (まえがき)」 (特集編集担当), 『音声研究』 Vol.4 No.1, p.3, 2000 年 4 月
- 「『火の山, 依然衰えず』一言葉の意味の探査法一」, 『文教ニュース』 No.1580, p.46, 2000 年 7 月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.19 No.8, pp.112-113, 明治書院, 2000 年 7 月
- 「『ケータイ』にひとこと」, 『日本語学』 Vol.19 No.12, pp.79-80, 明治書院, 2000 年 10 月
- 「外国の地名・人名の片仮名表記」, 『日本医事新報』 No.4002, pp.150-151, 2001 年 1 月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.20 No.1, pp.100-101, 明治書院, 2001 年 1 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 『国立国語研究所ことばビデオ ことば探検・ことば発見』モニター会議の司会

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 映像作品作成委員会委員 『国立国語研究所ことばビデオ ことば探検・ことば発見』
- 刊行物検討委員会委員 『沖縄語辞典 (9 刷)』の編集協力
- 『新「ことば」シリーズ』, 編集協力

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 農林水産省命名登録評価検討会審査委員 (所長代理)

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 4 件
- 日本音声学会評議員・編集委員・選挙管理委員

ウ. 教育活動

- 大東文化大学外国語学部日本語学科 非常勤講師

山崎 誠 (第1研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 現代雑誌 200 万字言語調査
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 記述的日本語研究のための電子化コーパスの試作と活用の研究 (代表者)
- 外来語概観調査
- 平成 12 年版教育白書等外来語調査

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 外来語検討委員会 編 『白書, 広報紙等における外来語の実態 (本編・資料編)』, 2000 年 5 月
- 言語体系研究部第一研究室: 山崎 誠, 藤田保幸 編 『現代語複合辞用例集』, 2001 年 3 月
- 『新「ことば」シリーズ 14 「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答 1 件, 2001 年 3 月
- 『国語研の窓』 1 件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「文法研究と用例—実例と作例の割合—」, 『日本語学』 Vol.19 No.6, pp.86-95, 明治書院, 2000 年 5 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 「論文の寿命—参考文献の“年齢”分布—」, 『言語処理学会第 7 回年次大会発表論文集』, pp.213-216, 言語処理学会, 2001 年 3 月
- 山崎 誠, 加藤安彦: 「発話と発話機能, 付随的行為との相互関連づけの試み」, 『言語処理学会第 7 回年次大会ワークショップ論文集』, pp.31-34, 言語処理学会, 2001 年 3 月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「標準化動向・共通利用単位としての β 単位」, 社団法人日本電子工業振興協会・JEIDA 自然言語処理システムに関するシンポジウム, 機械振興会館, 2000 年 6 月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 国立国語研究所研究活動一覧 (WEB 版) のコンテンツ作成 (平成 7 年度~10 年度版)

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 言語資源共有化機構 (GSK) 準備委員会委員

イ. 学会活動

- 計量国語学会委員
- 言語処理学会第7回年次大会プログラム委員
- 査読 国内雑誌 3件

ウ. 教育活動

- 文教大学文学部非常勤講師

5 その他

- 『中野洋氏略年譜・業績目録』の編集

鈴木美都代 (第1研究室研究員)

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『日本語科学』, 編集委員

加藤安彦 (第2研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 現代雑誌 200万字言語調査
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 記述的日本語研究のための電子化コーパスの試作と活用の研究 (分担者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・バラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『テレビ放送の語彙調査 (語彙表) CD-ROM 版』, 2001年2月
- 『新「ことば」シリーズ 14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答1件, 2001年3月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「コーパスと辞典にとっての新世紀」, 『日本語学』 Vol.20 No.1, 明治書院, 2001年1月

D 論文集等に掲載された論文

- 田中穂積, 亀井真一郎, 森口 稔, 加藤安彦: 「大きなコーパスを共有しよう」, 『情報処理』 Vol.41 No.7, pp.774-780, 情報処理学会, 2000年7月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 「新しい日本語辞書の試み—コーパス利用の可能性: 「きる」「きれる」を例にして—」, 語彙辞書研究会 編 『語彙辞書研究会資料集』 Vol.18, 語彙辞書研究会, 2000年11月

- 山崎 誠, 加藤安彦: 「発話と発話機能, 付随的行為と相互関連付けの試み」, 『言語処理学会第7回年次大会ワークショップ予稿集』, pp.31-34, 言語処理学会, 2001年3月
- “Diachronic Change in Adverbial Particle kurai and gurai”, European Association for Japanese Studies (EAJS) 編 *The 9th International Conference of the EAJS Book of Abstracts*, p.78, EAJS, 2000.8

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 言語資源共有機構運営委員・標準化ワーキンググループ主査

イ. 学会活動

- 言語処理学会理事・編集委員・渉外担当委員
- 査読 国内雑誌 1件
- 社会言語科学会事業委員
- 電子情報通信学会『言語理解とコミュニケーション』研究専門委員

ウ. 教育活動

- 弘前学院大学文学部非常勤講師
- 文教大学文学部非常勤講師

柏野和佳子 (第2研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 現代雑誌 200万字言語調査
- 科学研究費補助金 奨励研究 (A) 動詞の多義性解消過程解明のための形態・連語・文脈情報の抽出に関する研究 (代表者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B)(2) アジア圏理工系留学生のための多言語対応辞書を装備した日本語学習支援システム開発 (分担者)
- 白書, 広報紙等における外来語の実態調査

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『白書, 広報紙等における外来語の実態 (本編・資料編)』, 2000年5月
- 『テレビ放送の語彙調査 (語彙表) CD-ROM版』, 2001年2月

B 所員が執筆・編集した単行本

- (改訂作業) 土屋信一, 星野和子, 丸山直子, 石井正彦, 柏野和佳子: 水谷静夫 編 『岩波国語辞典』(第六版), 岩波書店, 2001年1月

D 論文集等に掲載された論文

- 柏野和佳子, 玉井陽子: 「意味タグ付与における問題について」, 『研究会開発用知的資源タグ付きテキストコーパス報告書』, pp.52-64, 技術研究組合 新情報処理開発機構, 2000年11月

E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 白井清昭, 柏野和佳子, 橋本三奈子, 徳永健伸, 有田英一, 井佐原均, 荻野紫穂, 小船隆一, 高橋裕信, 長尾確, 橋田浩一, 村田真樹: 「岩波国語辞典を利用した語義タグ付きテキストデータベースの作成」, 『情報処理学会研究報告 2001-NL-141』, pp.117-124, 2001年2月

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 新情報処理開発機構 (RWC) 「コーパスの作成と公開に関するワーキンググループ」

イ. 学会活動

- 言語処理学会評議員
- 査読 国内雑誌 1 件

笹原宏之 (第3研究室主任研究官)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 現代雑誌 200 万字言語調査
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 新聞 6 億字の言語調査と日本語学習者への Web 出版によるデータ提供 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 笹原宏之, 横山詔一: 国立国語研究所 編 『「国語に関する世論調査」問題別分析報告書』(第1章「概要」; 第2章「漢字に関する問い」; 第3章「異体字についての印象」に関して), 2000年5月
- 『新「ことば」シリーズ14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問」, 解説2件, 問答2件, 2001年3月
- 『国語研の窓』2件

B 所員が執筆・編集した単行本

- 山田俊治, 十重田裕一, 笹原宏之: 『山田美妙『豎琴草紙』本文の研究』(近代文学—テキストの森1), pp.1-264, 笠間書院, 2000年7月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「学界展望 文字・表記(理論・現代) 一九九八・一九九九年」, 『国語学』 No.202, pp.77-84, 明治書院, 2000年9月
- 「『麻酔』の語源」, 『日本医事新報』 No.3989, pp.103-104, 日本医事新報社, 2000年10月
- 笹原宏之, 横山詔一: 「異体字に対するなじみと好み—接触印象・使用頻度との関係—」, 『日本語科学』 No.8, pp.110-125, 国立国語研究所, 2000年10月
- 「『粘稠』と『肉芽』の読み方」, 『日本医事新報』 No.3995, p.118, 日本医事新報社, 2000年11月
- 「『善』と良」, 『日本医事新報』 No.4004, p.120, 日本医事新報社, 2001年1月
- 「漆器用語と漢和辞典」, 『日本医事新報』 No.4013, pp.114-115, 日本医事新報社, 2001年3月
- 「小地名とJIS漢字」, 『古辞書とJIS漢字』 No.4, pp.1-18, 北海道大学, 2001年3月

E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 横山詔一, 笹原宏之: 「漢字字体に対する「なじみ」の分析」, 『計量国語学』 Vol.22 No.7, pp.308-309, 計量国語学会, 2000年9月
- 横山詔一, 笹原宏之, 當山日出夫: 「異体字選択調査の信頼性 —再調査法による検討—」, 『日本行動計量学会 第28回大会 発表論文抄録集』, pp.325-326, 日本行動計量学会, 2000年10月
- 横山詔一, エリク・ロング, 江川 清, 笹原宏之, 古家時雄: 「海外 WWW ブラウザ対応の日本語データ検索システム—『現代雑誌九十種の用語用字: 全語彙・表記』を例に—」, 『信学技報』 No.2000-16, pp.17-24, 電子情報通信学会, 2000年10月
- エリク・ロング, 横山詔一, 笹原宏之, 野崎浩成: 「海外の WWW 閲覧ソフトに漢字学習素材を配信するシステムの開発」, 『韓国日本学会 第61回国際学術大会 ・日本語教育学会共催第20回国際シンポジウム 日本語教育国際シンポジウム』, pp.418-421, 韓国日本学会, 2000年11月
- 「流通漢字と文字生活 —字体の流通から接触・意識・使用へ—」, 『京都大学大型計算機センター 第67回研究セミナー「東洋学へのコンピュータ利用」『研究セミナー報告』, pp.38-61, 京都大学, 2001年3月

F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「小地名と JIS 漢字」, 漢字漢語研究会, 早稲田大学, 2000年5月
- 笹原宏之, 横山詔一: 「放課後の漢字」, ことばフォーラム, 国立国語研究所, 2000年8月
- 横山詔一, エリク・ロング, 江川 清, 笹原宏之, 谷本玲大: 「海外 WWW ブラウザ対応の日本語データベース検索システム—『現代雑誌九十種の用語用字: 全語彙・表記』を例に—」, データベース 2000 東京 紀伊國屋書店「文字鏡研究会セミナー」, 東京国際フォーラム, 2000年10月
- 「コーパスを用いた文字・表記調査のために —各種雑誌調査の文字・表記資料としての位置付け—」, コーパス研究会 第1回, 国立国語研究所, 2001年3月
- 「文字資料としての『太陽』」, 太陽研究会 第2回, 国立国語研究所, 2001年3月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 国立国語研究所『国語に関する世論調査』分析のための調査研究協力者会議委員
- 『新「ことば」シリーズ』, 編集刊行委員

ウ. 研究支援等

- 図書委員

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 財団法人 日本規格協会 符号化文字集合 JIS 調査研究委員会 委員
- 社団法人 情報処理学会 文字コード標準体系検討専門委員会 委員

ウ. 教育活動

- 早稲田大学 文学部 非常勤講師
- 文化女子大学 大学院 非常勤講師

5 その他

- 「どうなる どうする 新世紀3 ことば」, 『北海道新聞』, 2000年4月
- 「幽霊も出る携帯電話」, 『AERA』, p.49, 2000年5月
- 「二乗表現」, 『ダカーポ』, p.33, 2000年6月
- 「イマドキ漢字考」(「ことばフォーラム」紹介記事), 『朝日新聞』都内版, 2000年8月
- 「漢字の未来の物語3 砂金探し」, 『朝日新聞』, 2000年9月
- 「21世紀」, 『読売新聞』, 2001年1月
- 「「さいたま市」の「さ」の字体について」(解説), 「ズームイン!朝!!」 日本テレビ, 2001年3月
- Tokyo Journal In E-Mail Wrinkle, Cell Phones Are Chatterboxes, THE NEW YORK TIMES INTERNATIONAL, 2000.6

小沼 悦 (第3研究室研究補助員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 現代雑誌 200 万字言語調査

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 作成委員会委員

5 その他

- 「中野洋氏の業績目録を作成する会」関連

言語行動研究部

杉戸清樹 (部長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 学習手段選択時代の日本語教育に関する国際共同研究
- 言語行動の多様性に起因する言語問題についての研究領域の創成
- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/「日本語教育年鑑」の作成
- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/世界の言語研究機関調査
- 日本語学習の内容と方法に関する開発的研究 —日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成—
- 日本語教育相互研修ネットワーク
- 日本語教育長期専門研修
- 日本人の話しことばに関する総合的研究
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 「敬意表現についての留意点」, 国立国語研究所 編 『「国語に関する世論調査」問題別分析報告書』, pp.41-53, 2000年5月
- 「待遇表現の枠組み」, 国立国語研究所 編 『談話のポライトネス』, pp.99-109, 2001年3月
- 『新「ことば」シリーズ 14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答 1件, 2001年3月
- 『国語研の窓』 1件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「国語表現Ⅰについて」, 田中孝一 編 『高等学校学習指導要領の解説』, pp.32-37, 学事出版, 2000年7月
- 「国語表現Ⅰ・国語表現Ⅱ」, 田中孝一, 鳴島 甫 編 『高等学校学習指導要領の展開』, pp.49-64, 明治図書, 2000年8月
- 「言語行動論」, 『別冊国文学』 No.53, pp.79-83, 学燈社, 2000年11月
- 「談話研究の課題」, 国語学会 編 『国語学』 No.203, pp.121-122, 武蔵野書院, 2000年12月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「談話研究の課題」, 国語学会春季大会シンポジウム, 専修大学, 2000年5月
- 「年齢とともに変わることば」, 第2回ことばフォーラム, 国立国語研究所, 2000年5月

3 上記以外の所内業務

A. 研究所主催行事の企画・運営

- 第2回ことばフォーラム 「年齢とことば」, 企画
- 第4回ことばフォーラム 「日本語を学ぶ・日本語で暮す」, 協力
- 移転整備計画推進委員
- 中期計画等検討ワーキンググループ構成員
- 大学院プログラム運営委員
- 第8回国際シンポジウム, 委員

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 作成委員会委員長
- 『新「ことば」シリーズ』, 編集刊行委員
- 『日本語教育論集』, 編集委員

4 所外活動

ア. 所外委員会

- NHK 放送用語委員会専門委員
- 第22期国語審議会第一委員会専門調査員
- 文化庁・日本語教育のための試験の改善に関する調査研究協力者会議委員
- 文化庁・日本語教育支援総合ネットワーク・システムの構築に関する検討会委員
- 文化庁「美しく豊かな日本語」普及ビデオ企画委員会委員 (主査)

イ. 学会活動

- 国語学会評議員
- 査読 国内雑誌 2 件
- 社会言語科学会理事・事業委員長
- 日本言語学会委員

5 その他

- 明治書院『日本語学』編集委員

尾崎喜光 (第1研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語行動の多様性に起因する言語問題についての研究領域の創成

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ13「ことば」を調べる考える』, 解説 1 件, 2001 年 3 月
- 『国語研の窓』 2 件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「話し言葉の用例探し」, 『日本語学』 Vol.19 No.6, pp.44-55, 明治書院, 2000 年 5 月
- 「〈特別連載・言葉をたずねて〉(第14回) 男も女も「雨だよ」」, 『文教ニュース』 No.1576, pp.46-47, 文教ニュース社, 2000 年 6 月
- 「言語生活の変容をとっての百年という時間」, 『日本語学』 Vol.20 No.1, pp.30-40, 明治書院, 2001 年 1 月
- 「日本語の世代差はなくなるか」, 『月刊言語』 Vol.30 No.1, pp.66-72, 大修館, 2001 年 1 月

E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「方言音声使用の場面的多様性－山形県鶴岡市での調査から－」, 『日本方言研究会第70回研究発表会発表原稿集』, pp.9-16, 2000年5月
- 「東京 de 方言調査」, 『第224回都立大学方言学会』, pp.1-16, 2000年11月

F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「「若者ことば」から「オジサンことば」へ」, ことばフォーラム, 国立国語研究所, 2000年5月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 作成委員会委員
- 『日本語科学』, 編集委員

4 所外活動

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 1件
- 社会言語学会理事・事務局委員

ウ. 教育活動

- 大東文化大学外国語学部 非常勤講師
- 文教大学文学部 非常勤講師

5 その他

- 【取材記事】「～ますなあ」はおじさん言葉, 『朝日新聞』, 2000年4月24日 p.38
- 【取材記事】B課長とA子さんのビジネスマナー実践学・敬語編, 『ふれあい』第59号(2000年11月発行; (株)東京読売サービス), 2000年11月, pp.2-4
- 【取材記事】「若者ことば」があるなら「おじさん言葉」だってある!?, 『リビング姫路』第18号(2000年9月2日発行), 2000年9月2日, p.2

塚田実知代 (第1研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語行動の多様性に起因する言語問題についての研究領域の創成

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第8回国際シンポジウム, 事務局
- 「ことば」に関するビデオ作品モニター会議, 協力

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『日本語科学』, 編集委員

前川喜久雄 (第2研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 日本人の話しことばに関する総合的研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究 (代表者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築 (代表者: サブリーダー)
- 科学研究費補助金 特定領域研究 (B) 韻律に着目した音声言語情報処理の高度化 (分担者)
- 科学研究費補助金 特定領域 (A) 高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究 (分担者)
- 戦略的基礎研究推進事業 脳を創る 発声力学に基づくタスクプランニング機構の構築 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語研の窓』 1 件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 前川喜久雄, 籠宮隆之, 小磯花絵, 小椋秀樹, 菊池英明: 「日本語話し言葉コーパスの設計」, 『音声研究』 Vol.4 No.2, pp.51-61, 日本音声学会, 2000年8月
- 「パラ言語的情報」, 中村 明 編『別冊国文学』 No.53, pp.172-175, 学燈社, 2000年11月
- 古井貞照, 前川喜久雄, 井佐原 均: 「大規模コーパスに基づく『話し言葉工学』の構築」, 『日本音響学会誌』 Vol.56 No.11, pp.752-755, 日本音響学会, 2000年11月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 籠宮隆之, 菊池英明, 小磯花絵, 前川喜久雄: 「大規模話し言葉コーパスにおける発話スタイルの諸相」, 『日本音響学会 2000年秋季研究発表講演論文集』, pp.107-108, 日本音響学会, 2000年9月
- 前川喜久雄, 北川智利: 「パラ言語情報の知覚」, 『日本行動計量学会第28回大会発表論文抄録集』, pp.157-160, 日本行動計量学会, 2000年10月
- 前川喜久雄, 籠宮隆之, 菊池英明, 小磯花絵, 小椋秀樹: 「モノログを対象とした自発音声コーパス: その設計について」, 『第14回日本音声学会全国大会予稿集』, pp.85-90, 日本音声学会, 2000年10月
- 小磯花絵, 土屋菜穂子, 間淵洋子, 斉藤美紀, 籠宮隆之, 菊池英明, 前川喜久雄: 「『日本語話し言葉コーパス』の書き起こし基準について」, 『信学技報 NLC2000-56&SP2000-104』, pp.55-60, 電子情報通信学会, 2000年12月
- 「The Vowel: Its Nature and Structure の出版」, 『日本音響学会誌』 Vol.57 No.1, p.64, 2001年1月
- 「『日本語話し言葉コーパス』の構築」, 『話し言葉の科学と工学ワークショップ講演予稿集』, pp.7-12, 2001年2月
- 古井貞照, 井佐原均, 前川喜久雄: 「話し言葉工学」プロジェクトの概要と展望」, 『話し言葉の科学と工学ワークショップ講演予稿集』, pp.1-6, 2001年2月
- 「言語研究における自発音声」, 『日本音響学会 2001年春季研究発表会講演論文集』 Vol.1, pp.19-22, 2001年3月
- 菊池英明, 籠宮隆之, 竹内京子, 前川喜久雄: 「自発音声に対する J.ToBI ラベリングの問題点検討」, 『日本音響学会 2002年春季研究発表会講演論文集』 Vol.1, pp.383-384, 2001年3月
- K. Maekawa, H. Koiso, S. Furui and H. Isahara: "Spontaneous speech corpus of Japanese", *Proceedings LREC2000* Vol.2, pp.947-952, 2000.6

- D. Erickson, A. Abramson, T. Kaburagi and K. Maekawa : “Articulatory characteristics of emotional utterances in spoken English”, *Proceedings of ICSLP2000* Vol.2, pp.365–368, 2000.10
- Donna Erickson, M. Hashi, J. Dang and K. Mekawa : “Some articulatory and acoustic changes associated with emphasis in spoken English”, *Proceedings of ICSLP2000, Beijing* Vol.3, pp.247–250, 2000.10
- H. Kasuya, M. Yoshizawa and K. Maekawa : “Roles of voice source dynamics as a conveyer of paralinguistic features”, *Proceedings of ICSLP2000* Vol.2, pp.345–348, 2000.10
- K. Maekawa and T. Kagomiya : “Influence of paralinguistic information on segmental articulation”, *Proceedings of ICSLP2000* Vol.2, pp.349–352, 2000.10

F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「話しことばの秘密」, ことばフォーラム, 国立国語研究所, 2000年8月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第8回国際シンポジウム専門部会「自発音声韻律ラベリングワークショップ」, 企画, 運営

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 言語聴覚士試験委員

イ. 学会活動

- 日本音響学会査読委員
- 日本音声学会評議員
- 日本音声学会理事・編集委員長

ウ. 教育活動

- 大阪大学文学部非常勤講師 (集中講義)
- 東北大学文学部非常勤講師 (集中講義)

5 その他

- 郵政省通信総合研究所に併任

小磯花絵 (第2研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 日本人の話しことばに関する総合的研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 奨励研究 (A) 会話コミュニケーションにおける韻律特徴の機能に関する実験的研究 (代表者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築 (分担者)

2 成果公表活動

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 前川喜久雄, 籠宮隆之, 小磯花絵, 小椋秀樹, 菊池英明: 「日本語話し言葉コーパスの設計」, 『音声研究』 Vol.4 No.2, pp.51-61, 日本音声学会, 2000年8月

E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 籠宮隆之, 菊池英明, 小磯花絵, 前川喜久雄: 「大規模話し言葉コーパスにおける発話スタイルの諸相」, 『日本音響学会講演論文集』, pp.107-108, 日本音響学会, 2000年9月
- 小磯花絵, 土屋菜穂子, 間淵洋子, 斉藤美紀, 籠宮隆之, 菊池英明, 前川喜久雄: 「『日本語話し言葉コーパス』の書き起こし基準について」, 『信学技法 NLC2000-56/SP2000-104』, pp.55-60, 電子情報通信学会, 2000年12月
- 「『日本語話し言葉コーパス』の書き起こし基準」, 『話し言葉の科学と工学ワークショップ』, pp.13-20, 通信総合研究所・国立国語研究所, 2001年2月

3 上記以外の所内業務

A. 研究所主催行事の企画・運営

- ことばフォーラム, 企画広報委員会委員
- 第8回国際シンポジウム専門部会「自発音声韻律ラベリングワークショップ」, 事務局

I. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 企画広報委員会委員

4 所外活動

I. 学会活動

- 社会言語科学会 大会運営委員

菊池英明 (第2研究室非常勤研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築(分担者)

2 成果公表活動

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 前川喜久雄, 籠宮隆之, 小磯花絵, 小椋秀樹, 菊池英明: 「日本語話し言葉コーパスの設計」, 『音声研究』 Vol.4 No.2, pp.51-61, 2000年8月

E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 籠宮隆之, 菊池英明, 小磯花絵, 前川喜久雄: 「大規模話し言葉コーパスにおける発話スタイルの諸相-書き起こしテキストの分析から-」, 『日本音響学会 2000年秋季研究発表会講演論文集』, pp.107-108, 2000年9月

- 小磯花絵, 土屋菜穂子, 間淵洋子, 斉藤美紀, 籠宮隆之, 菊池英明, 前川喜久雄: 「『日本語話し言葉コーパス』の書き起こし基準について」, 『電子情報通信学会技術報告』 Vol.SP2000-104, pp.55-60, 2000年12月
- 「日本語音声への韻律ラベリング」, 『人工知能学会研究会資料』 Vol.SIG-SLUD-A003-4, pp.21-24, 2001年2月
- 菊池英明, 籠宮隆之, 前川喜久雄, 竹内京子: 「自発音声に対する J_ToBI ラベリングの問題点検討」, 『日本音響学会 2001 年春季研究発表会講演論文集』, pp.383-384, 2001年3月

4 所外活動

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 2 件
- 人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会幹事

籠宮隆之 (第2研究室非常勤研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築 (分担者)

2 成果公表活動

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 前川喜久雄, 籠宮隆之, 小磯花絵, 小椋秀樹, 菊池英明: 「日本語話し言葉コーパスの設計」, 『音声研究』 Vol.4 No.2, pp.51-61, 日本音声学会, 2000年8月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 前川喜久雄, 籠宮隆之, 小磯花絵, 菊池英明, 小椋秀樹: 「モノログを対象とした自発音声コーパス: その設計について」, 『第14回日本音声学会全国大会予稿集』, pp.85-90, 日本音声学会, 2000年8月31日
- 籠宮隆之, 菊池英明, 小磯花絵, 前川喜久雄: 「大規模話し言葉コーパスにおける発話スタイルの諸相 - 書き起こしテキストの分析から -」, 『日本音響学会 2000 年度秋季研究発表会講演論文集』 Vol.I, pp.107-108, 日本音響学会, 2000年9月
- 小磯花絵, 土屋菜穂子, 間淵洋子, 斉藤美紀, 籠宮隆之, 菊池英明, 前川喜久雄: 「『日本語話し言葉コーパス』の書き起こし基準について」, 『電気電子通信学会技術報告 NLC2000-56 & SP2000-104』, pp.55-60, 電子情報通信学会, 2000年12月
- 菊池英明, 籠宮隆之, 竹内京子, 前川喜久雄: 「自発音声に対する J_ToBI ラベリングの問題点検討」, 『日本音響学会 2001 年度春季研究発表会講演論文集』 Vol.I, pp.383-384, 日本音響学会, 2001年3月
- Maekawa Kikuo and Kagomiya Takayuki: "Influence of Para linguistic information on segmental articulation", *Proceedings of ICSLP2000* Vol.2, pp.349-352, 2000.10

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第8回国際シンポジウム専門部会「自発音声韻律ラベリングワークショップ」, 事務局

言語変化研究部

吉岡泰夫 (部長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 日本人の話しことばに関する総合的研究
- 方言文法の総合的研究/1. 方言文法・表現法地図作成のための研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B)(1) コミュニケーションの地域性と関西方言の影響力についての広域的研究 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 甲斐陸朗, 笹原宏之, 陣内正敬, 杉戸清樹, 田中牧郎, 田中ゆかり, 野村雅昭, 柳澤芳昭, 横山詔一, 吉岡泰夫: 国立国語研究所「国語に関する世論調査」分析のための調査研究協力者会議 編 『国語に関する世論調査』問題別分析報告書, 2000年5月
- 吉岡泰夫, 奥水かおり, 山田敦子, 相澤正夫, 杉戸清樹: 国立国語研究所 編 『国立国語研究所ことばビデオ ことば探検・ことば発見 解説書』, 2001年3月
- 国立国語研究所映像作品作成委員会 (企画・制作), 毎日映画社 (製作): 『国立国語研究所ことばビデオ ことば探検・ことば発見』, 2001年3月
- 『談話のポライトネス』, 2001年3月
- 『新「ことば」シリーズ 14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答 2件, 2001年3月
- 『国語研の窓』 1件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「敬語使用と規範意識の社会差・地域差」, 『計量国語学』 Vol.22 No.6, pp.239-251, 計量国語学会, 2000年9月
- 「暮らしのことばを訪ねる九州の旅」, 『日本語学』 Vol.19 No.10, pp.51-57, 明治書院, 2000年9月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「日本企業で求められる敬語の使い方」, The 9th Asian Business Language Workshop (アメリカ合衆国ユタ州アジア学大学連合主催), Park City, Utah, U.S.A., 2000年7月
- 「敬語使用と規範意識の社会差・地域差」, 筑紫国語学談話会, 九州大学文学部, 2000年12月

3 上記以外の所内業務

A. 研究所主催行事の企画・運営

- 言葉に関するビデオ作品モニター会議 企画・運営
- 第8回国際シンポジウム, 委員

I. 研究所刊行物の企画・編集

- 国立国語研究所「国語に関する世論調査」分析のための調査研究協力者会議委員
- 第7回国際シンポジウム報告書『談話のポライトネス』企画・編集
- 映像作品作成委員会委員長
- 刊行物検討委員会委員

ウ. 研究支援等

- 外国人等研究員の指導（「指導教官」）
- 図書委員会委員長

4 所外活動

ア. 所外委員会

- NHK 記録事業「ふるさと日本のことば」推進委員

イ. 学会活動

- 国語学会庶務委員長
- 日本方言研究会世話人

5 その他

- NHK テレビ BS1「九州情報」出演, 2000年4月
- NHK 総合テレビ「ひのくに発信塔-こっでどうかい熊本弁-」出演, 2000年4月
- NHK 総合テレビ「ひのくに Today」出演, 2000年8月
- 日本テレビ「ズームイン朝」出演, 2000年9月
- NHK 総合テレビ「ひのくに発信塔-よかことば熊本弁-」出演, 2000年10月

大西拓一郎 (第1研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 方言文法の総合的研究/1. 方言文法・表現法地図作成のための研究
- 方言文法の総合的研究/2. 方言文法の記述とその通時的解釈に関する基礎的研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 特定領域研究 (A)(2) 消滅する方言文法・表現法の緊急調査研究 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ13「ことば」を調べる考える』, 解説1件, 2001年3月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 「方言学」という学問, 『日本方言研究会研究発表会発表原稿集』 No.70, pp.77-80, 2000年5月

4 所外活動

イ. 学会活動

- 日本方言研究会幹事

三井はるみ (第1研究室主任研究官)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 方言文法の総合的研究/1. 方言文法・表現法地図作成のための研究
- 方言文法の総合的研究/2. 方言文法の記述とその通時的解釈に関する基礎的研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 奨励研究 (A) 条件表現に関する対照方言学的研究 (代表者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ 14 「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問」, 問答 2 件, 2001 年 3 月
- 『国語研の窓』 1 件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「方言と共通語の共存」, 『文教ニュース』, pp.42-42, 2000 年 5 月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.19 No.10, pp.118-119, 明治書院, 2000 年 9 月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.20 No.3, pp.102-103, 明治書院, 2001 年 3 月

D 論文集等に掲載された論文

- 「極限のとりたての地理的変異」, 筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織 編 『日本語のとりたて』 (研究成果報告書), pp.19-38, 2001 年 3 月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「極限のとりたての地理的変異」, 「日本語のとりたて - 歴史的变化・地理的変異と現代語 -」研究会, 安田女子大学, 2000 年 10 月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『新「ことば」シリーズ』, 編集刊行委員

4 所外活動

ア. 所外委員会

- NHK 記録事業「21 世紀にのこしたいふるさと日本のことば」東京都域監修者

イ. 学会活動

- 日本方言研究会幹事

ウ. 教育活動

- 共立女子大学非常勤講師

中山典子 (第2研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 方言文法の総合的研究

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 企画広報委員会委員

言語教育研究部

米田正人 (部長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究/1. 言語教育の基礎としての言語生活調査に関するデータベース作成と統計学的研究

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語研の窓』 3 件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「国際社会の英語・日本語－日本語観国際センサスの結果から－」, 文部省大臣官房調査統計企画課 編 『教育と情報』 No.510, pp.2-7, 第一法規出版株式会社, 2000 年 9 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 林知己夫, 鈴木達三, 江川 清, 米田正人: 「『日本語観国際センサス』 28 カ国調査の実施」, 『第 68 回日本統計学会講演報告集 2000』, pp.75-76, 日本統計学会, 2000 年 7 月
- 林知己夫, 鈴木達三, 江川 清, 米田正人: 「『日本語観国際センサス』 28 カ国調査の 2, 3 の結果」, 『第 68 回日本統計学会講演報告集 2000』, pp.77-78, 日本統計学会, 2000 年 7 月
- 「英語優位の社会と英語のイメージ－世界 28 カ国の国際比較－」, 『日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集』, pp.331-334, 日本行動計量学会, 2000 年 10 月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「日本語学習と日本・日本人イメージ－世界 28 カ国における日本語観国際比較調査から－」, 第 1 回中日伝播国際学術研究会 編, 2000 年 8 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第 8 回国際シンポジウム, 委員
- 第 8 回国際シンポジウム「東アジアにおける日本語観国際センサス」, 事務局

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 協力

4 所外活動

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 1 件
- 日中コミュニケーション研究会世話人
- 日本行動計量学会欧文誌編集委員

島村直己 (第1研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究/2. 言語発達・言語教育に関する多角的研究

當眞千賀子 (第1研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究/3. 小学校の教室談話におけることばの多様性
- 科学研究費補助金 奨励研究 (A) 学校言語教育の活動形態と談話構造に関する研究：日米の比較を通して (代表者)

2 成果公表活動

B 所員が執筆・編集した単行本

- 「並び対する語りの綾―体験の組織化の重なり：石井論文へのコメント」, やまだようこ 編 『人生を物語る』, pp.143-145, ミネルヴァ書房, 2000年
- 「教室の談話分析」, やまだようこ, 佐藤達哉, 南 博文 編 『カタログ 現場心理学』, pp.20-27, 金子書房, 2001年

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「人がインスクリプションを用いて可視化する「人・物・世界の関係」の多様性 ―川床論文に対するコメント―」, 『心理学評論』 Vol.43, pp.24-26, 2001年
- “Ontisch vs. ontologisch approaches to individualistic/sociocentric distinction.”, *Human Development* Vol.43, pp.227-229, 2000年

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 「小学校における「学び」の諸相：社会・文化・歴史的アプローチより」, 『日本心理学会第64回大会発表論文集』 (京都大学), 2000年
- “Dialogicality in being in a classroom (Presented in the symposium entitled “Dialogicality and multivoicedness in human activities”)”, *III Conference for Socio-Cultural Research. (San Paulo, Brazil.)*, p.143, 2000年

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「教室の談話」, ことばフォーラム, 国立国語研究所, 2000年5月
- 「発達への社会・文化・歴史的アプローチの立場からの日本語教育への提言」, 第8回国際シンポジウム「多言語環境下での年少者日本語教育を考える」, 2001年2月

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究会「社会空間と変容する宗教」共同研究員
- 東京学芸大学 海外帰国子女センター 研究プロジェクト委員

ウ. 教育活動

- 早稲田大学人間科学部 非常勤講師
- 東京外国語大学 集中講義講師

小高京子 (第1研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究/3. 小学校の教室談話におけることばの多様性

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 企画広報委員会委員
- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 作成委員会委員

情報資料研究部

熊谷康雄 (第1研究室室長・第2研究室併任)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 日本語研究資源の作成と共有のための基盤に関する研究/1. 研究成果の組織的蓄積と公開に関する研究
- 文献情報の収集・整理法に関する研究 —収集・編集システムの高度化・効率化に関する基礎的研究—
- 図書館情報システムの構築
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 計量的日本語研究文献の CD-ROM 化とその利用技術の開発 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語年鑑 2000 年版』, 2000 年 12 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 「バーチャル日本語情報資料館構築に向けて」, 『平成 12 年度国立国語研究所公開研究発表会予稿集』, pp.4-13, 2000 年 12 月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 『国語学研究文献総索引』(国語学会・国立国語研究) 追加文献データ (国立国語研究所ホームページより公開), 2000 年 10 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 平成 12 年度 公開研究発表会, 運営

ウ. 研究支援等

- ネットワークの管理・運営
- 国立国語研究所ホームページの作成・管理・運営
- 所内ネットワークユーザサポート
- 図書館情報システムの管理運営
- 国語学研究文献総索引データ (国語学会との共同事業による) の整備・保守・公開

4 所外活動

ウ. 教育活動

- 専修大学文学部 非常勤講師

池田理恵子 (第1研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 国語関係新聞記事の蓄積と活用の研究 —記事本文の活用と資料収集法の検討—
- 日本語学習の内容と方法に関する開発的研究 —日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成—
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費: データベース 国立国語研究所新聞記事画像データベース (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 「新聞切り抜きデータベースの作成とその活用例」, 『平成12年度国立国語研究所公開研究発表会』, pp.24-35, 2000年12月
- 『国語研の窓』 2件

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「ことばに関する新聞切り抜きデータベース」, 東日本国語国文学データベース研究会第1回研究発表会, 国立国語研究所, 2000年11月
- 「新聞切り抜きデータベース」, 研究室公開, 2000年12月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『沖縄語辞典』(第9刷), 刊行物等検討委員会委員

4 所外活動

イ. 学会活動

- 社会言語科学会事業委員会委員

辻野都喜江 (第1研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 国語関係新聞記事の蓄積と活用の研究 —記事本文の活用と資料収集法の検討—
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費: データベース 国立国語研究所新聞記事画像データベース (分担者)

2 成果公表活動

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「新聞切り抜きデータベース」, 研究室公開, 2000年12月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 平成 12 年度 公開研究発表会, 企画, 運営, 協力

伊藤雅光 (第 2 研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 文献情報の収集・整理法に関する研究 —収集・編集システムの高度化・効率化に関する基礎的研究—

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語年鑑 2000 年版』, 2000 年 12 月
- 『新「ことば」シリーズ 14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答 2 件, 2001 年 3 月
- 『国語研の窓』 2 件

B 所員が執筆・編集した単行本

- 「第Ⅱ部 日本語論へのアプローチ — 計量言語学」(分担執筆), 中村 明 編 『現代日本語必携』, pp.99-103, 学燈社, 2000 年 10 月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 『『ご逝去』は過剰敬語か』, 『日本医事新報』 No.3991, p.102, 日本医事新報社, 2000 年 10 月
- 「全自動型・テキスト合成システム『ふじむら』(ver 3.0)」, 『計量国語学』 Vol.22 No.8, pp.335-354, 2001 年 3 月

D 論文集等に掲載された論文

- 「中国語テキストとしての『日本書紀』における漢字彙素の構造」, 前田富祺 編 『国語文字史の研究 第 5 集』, pp. 1-13, 和泉書院, 2000 年 5 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 「ポップス系流行歌語彙の品詞認定における日英共通品詞論の必要性について」, 『計量国語学会 第 44 回大会発表要旨集』, p.8, 東京女子大学, 2000 年 9 月
- 「計量語彙論のための言語単位特徴表の提案」, 『語彙・辞書研究会第 18 回研究発表会要旨集』, pp.25-29, 三省堂文化会館, 2000 年 11 月
- 斎藤達哉, 新野直哉, 伊藤雅光: 「国語年鑑データベース活用の一事例 — 1991~1999 年の国語研究の動向」, 『平成 12 年度国立国語研究所公開研究発表会予稿集』, 2000 年 12 月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「ポップス系流行歌のことば — ユーミン・ソングの分析と生成」, 早稲田大学文学部講演, 2000 年 11 月
- 「国語年鑑データベース」, 研究室公開, 2000 年 12 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 平成 12 年度 公開研究発表会, 司会

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『日本語科学』, 編集委員長

ウ. 研究支援等

- 日本語研究文献情報の提供

4 所外活動

イ. 学会活動

- 計量国語学会委員・庶務主任
- 国語学会委員・編集長補佐
- 査読 国内雑誌 18 件

ウ. 教育活動

- 埼玉大学大学院文化科学研究科 非常勤講師

5 その他

- TBS テレビ「はなまるマーケット」出演

新野直哉 (第2研究室主任研究官)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 文献情報の収集・整理法に関する研究 — 収集・編集システムの高度化・効率化に関する基礎的研究 —

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語年鑑 2000 年版』, 2000 年 12 月
- 『新「ことば」シリーズ 14 「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問」, 問答 2 件, 2001 年 3 月

D 論文集等に掲載された論文

- 「学術誌の誌名について — 国語学・国文学専門誌の場合 —」, 『語から文章へ』, pp.43-54, 「語から文章へ」編集委員会, 2000 年 8 月
- 「近年の, 「“全然” + 肯定」関係の文献について」, 『国語論究 8 国語史の新視点』, pp.214-235, 明治書院, 2000 年 11 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 斎藤達哉, 新野直哉, 伊藤雅光: 「国語年鑑データベース活用の一事例 — 1991~1999 年の国語研究の動向 —」, 『平成 12 年度国立国語研究所公開研究発表会資料集』, pp.14-23, 2000 年 12 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 平成 12 年度 公開研究発表会

井上文子 (第 2 研究室主任研究官)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 方言文法の総合的研究/1. 方言文法・表現法地図作成のための研究
- 方言文法の総合的研究/2. 方言文法の記述とその通時的解釈に関する基礎的研究
- 方言録音文字化資料に関する研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「全国方言談話資料データベース」に基づく方言文法の研究と検証調査 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費：データベース 全国方言談話資料データベース (分担者)
- 科学研究費補助金 特定領域研究 (A) 消滅する方言文法・表現法の緊急調査研究 (協力者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 井上文子, 真田信治 編 『対馬・厳原町豆殿方言の自然談話』, 2000 年 9 月
- 『新「ことば」シリーズ 14 「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答 2 件, 2001 年 3 月
- 『国語研の窓』 1 件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「「閉店時間は何時ですか？」に対する答えをめぐって」, 『文教ニュース』 No.1574, p.46, 2000 年 5 月
- 「方言の変化の男女差」, 『文教ニュース』 No.1573, pp.53-54, 2000 年 5 月
- 「味覚を表す方言の全国分布」, 『日本語学』 Vol.19 No.7, pp.46-51, 明治書院, 2000 年 6 月
- 「機能論としての「共通語」」, 『言語』 Vol.29 No.9, pp.6-7, 大修館書店, 2000 年 9 月

D 論文集等に掲載された論文

- 「木曾福島・開田村方言における否定表現の動態—高年層と若年層との比較による世代間推移の一端—」, 変異理論研究会 編 『20 世紀フィールド言語学の軌跡—徳川宗賢先生追悼論文集—』, pp.229-241, 変異理論研究会, 2000 年 6 月
- 「日本語史・日本語学史」, 『日本語教育能力検定試験 第 10 回～第 11 回傾向徹底分析問題集』, pp.131-132, アルク, 2000 年 8 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 井上文子, 田原広史: 「全国方言談話資料データベースの作成に向けて」, 『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』 No.9, pp.93-102, 大阪樟蔭女子大学日本語研究センター, 2001 年 3 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 平成 12 年度 公開研究発表会, 協力

ウ. 研究支援等

- 図書館運営

4 所外活動

イ. 学会活動

- 国語学会庶務委員
- 査読 国内雑誌 2 件
- 東日本国語国文学データベース研究会世話人
- 日本方言研究会幹事

ウ. 教育活動

- 専門学校非常勤講師
- 大学非常勤講師

齋藤達哉 (第2研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 文献情報の収集・整理法に関する研究 — 収集・編集システムの高度化・効率化に関する基礎的研究 —
- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信 / 「日本語教育年鑑」の作成

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語年鑑 2000 年版』, 2000 年 12 月
- 『日本語教育年鑑 2000 年版』, 2000 年 6 月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「『琉球列島のことば』に関する研究の概観 — 過去 45 年間の『国語年鑑』の分析から —」, 『沖縄学』 No.4, pp.117-89, 沖縄学研究所, 2000 年 6 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 齋藤達哉, 新野直哉, 伊藤雅光: 「国語年鑑データベースの活用の一事例 — 1991~1999 年の国語研究の動向 —」, 『平成 12 年度国立国語研究所公開研究発表会』, pp.14-23, 国立国語研究所, 2000 年 12 月

4 所外活動

イ. 学会活動

- 国語学会庶務委員

ウ. 教育活動

- 跡見学園女子大学文学部 非常勤講師

磯部よし子 (第2研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 日本語研究資源の作成と共有のための基盤に関する研究/1. 研究成果の組織的蓄積と公開に関する研究
- 言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究/1. 言語教育の基礎としての言語生活調査に関するデータベース作成と統計学的研究

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第8回国際シンポジウム, 事務局
- 平成12年度 公開研究発表会, 運営
- 「ことば」に関するビデオ作品モニター会議, 協力

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『新「ことば」シリーズ』, 編集刊行委員

横山詔一 (電子計算機システム開発研究室主任研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/世界の言語研究機関調査
- 日本語研究資源の作成と共有のための基盤に関する研究/3. 新聞の JIS 外漢字に関する数量的研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 新聞 6 億字の言語調査と日本語学習者への Web 出版によるデータ提供 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 心理学研究のための日本語資源の整備に関する研究 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 国立国語研究所 編 『「国語に関する世論調査」問題別分析報告書』(解説3件), 2000年5月
- 『新「ことば」シリーズ13「ことば」を調べる考える』, 解説1件, 2001年3月
- 『国語研の窓』1件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「チンパンジーとの会話(言葉をたずねて第13回)」, 『週刊文教ニュース』, 文教新聞社, 2000年5月
- 笹原宏之, 横山詔一: 「異体字に対するなじみと好み—接触印象・使用頻度との関係—」, 『日本語科学』No.8, pp.110-125, 国立国語研究所, 2000年10月
- 「資料紹介「今昔文字鏡: 単漢字8万字 TTF 版」」, 『専門図書館』No.184, pp.45-46, 専門図書館協議会, 2000年11月
- 「日本語開国の日は(デジタル化時代の日本語第7回)」, 『アイ・フィール読書風景』No.15, 紀伊國屋書店, 2001年2月
- CHIKAMATSU Nobuko, YOKOYAMA Shoichi, NOZAKI Hironari, Eric LONG, FUKUDA Sachio: “A Japanese logographic character frequency list for cognitive science research.”, *Behavior Research Methods, Instruments, & Computers* Vol.32 No.3, pp.482-500, Psychonomic Society, 2000.10

D 論文集等に掲載された論文

- 「視覚的情報と意味」, 平澤洋一 編 日本語教育学シリーズ第4巻『電脳意味論』, pp.49-73, おうふう, 2001年3月

E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 横山詔一, 笹原宏之: 「異体字に対する「なじみ」の分析」, 『計量国語学』 Vol.22 No.7, pp.308-309, 計量国語学会, 2000年9月
- 横山詔一, 笹原宏之, 當山日出夫: 「異体字調査の信頼性—再調査法による検討—」, 『日本行動計量学会第28回大会発表論文抄録集』, pp.325-326, 日本行動計量学会, 2000年10月
- 横山詔一, エリク・ロング, 江川 清, 笹原宏之, 古家時雄: 「海外 WWW ブラウザ対応の日本語データ検索システム—『現代雑誌九十種の用語用字: 全語彙・表記』を例に—」, 『電子情報通信学会技術研究報告 TL2000-16』, pp.17-24, 電子情報通信学会, 2000年10月
- 野崎造成, 清水康敬, 横山詔一: 「漢字2字熟語の頻度特性に関する分析」, 『教育工学関連学協会連合第6回全国大会講演論文集』, pp.211-214, 日本教育工学会, 2000年10月
- 「文化交流とメディア政策の観点から: 日本心理学会ワークショップ話題提供」, 『日本心理学会第64回大会発表論文集』, S43, 京都大学, 2000年11月
- エリク・ロング, 横山詔一, 野崎造成, 笹原宏之: 「海外の WWW 閲覧ソフトに漢字学習素材を配信するシステムの開発」, 『韓国日本学会第61回国際学術大会 韓国日本学会・日本語教育学会共催第20回国際シンポジウム予稿集』, pp.418-421, 同徳女子大学校(韓国・ソウル市), 2000年11月
- 久野雅樹, 横山詔一, 野崎造成: 「毎日新聞と朝日新聞における文字使用の差」, 『日本心理学会第64回大会発表論文集』, p.649, 京都大学, 2000年11月
- 野崎造成, 横山詔一, 久野雅樹: 「文字使用頻度の計量における JIS 外漢字の問題—言語材料統制のための漢字頻度データ利用への注意点—」, 『日本心理学会第64回大会発表論文集』, p.668, 京都大学, 2000年11月
- 野崎造成, 田中佳子, 村瀬江里子, 横山詔一: 「使用頻度を活用した構造別漢字データベースの開発」, 『韓国日本学会第61回国際学術大会 韓国日本学会・日本語教育学会共催第20回国際シンポジウム予稿集』, pp.387-390, 同徳女子大学校(韓国・ソウル市), 2000年11月
- 「言語研究資料としての電子媒体の問題点」, 『平成12年度国立国語研究所公開研究発表会予稿集』, pp.36-47, 国立国語研究所, 2000年12月

F 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- 笹原宏之, 横山詔一: 「放課後の漢字」, ことばフォーラム, 国立国語研究所, 2000年8月
- 横山詔一, エリク・ロング, 江川 清, 笹原宏之, 谷本玲大: 「海外 WWW ブラウザ対応の日本語データベース検索システム」, データベース2000東京セミナー, 東京国際フォーラム, 2000年10月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第3回ことばフォーラム「日本語っておもしろい」, 企画, 協力
- 平成12年度 公開研究発表会, 企画, 協力

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 協力
- 『新「ことば」シリーズ』, 企画
- 『日本語科学』, 編集委員

ウ. 研究支援等

- ネットワークシステムの運営協力

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 政策研究大学院大学日本語教育指導者養成プログラム準備委員会委員

イ. 学会活動

- 計量国語学会委員
- 査読 国内雑誌 8 件

ウ. 教育活動

- 津田塾大学学芸学部英文学科非常勤講師

5 その他

- 取材協力, 「ことばフォーラム」の紹介記事, 朝日新聞, 2000 年 8 月

米田純子 (電子計算機システム開発研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語発達・言語教育・言語生活に関する総合的研究/1. 言語教育の基礎としての言語生活調査に関するデータベース作成と統計学的研究
- 日本語研究資源の作成と共有のための基盤に関する研究/2. 日本語データベースの構築
- 日本語研究資源の作成と共有のための基盤に関する研究/3. 新聞の JIS 外漢字に関する数量的研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 新聞 6 億字の言語調査と日本語学習者への Web 出版によるデータ提供 (分担者)

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第 3 回ことばフォーラム「日本語っておもしろい」, 運営, 協力
- 第 8 回国際シンポジウム「東アジアにおける日本語観国際センサス」, 協力
- 平成 12 年度 公開研究発表会, 運営, 協力

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『新「ことば」シリーズ』, 編集刊行委員

ウ. 研究支援等

- ネットワークシステムの運用協力

国語辞典編集室

田中牧郎 (国語辞典編集室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語研究に現れる術語の語誌的研究
- 国語辞典編集室コーパスの作成

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 国立国語研究所 編 『「国語に関する世論調査」問題別分析報告書』, 2000年5月
- 『新「ことば」シリーズ14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答2件, 2001年3月
- 『国語研の窓』2件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.19 No.6, pp.112-113, 明治書院, 2000年5月
- 「1998年・1999年における国語学界の展望 語彙(史的研究)」, 国語学会 編 『国語学』 Vol.51 No.2, pp.31-39, 2000年9月
- 「統語的方法に基づく語の意味研究—万葉集・八代集のカナシの分析を例として—」, 『日本語学』 Vol.19 No.11, pp.46-56, 明治書院, 2000年9月
- 田中牧郎, 小木曾智信: 「総合雑誌『太陽』の本文の様態と電子化テキスト」, 国立国語研究所 編 『日本語科学』 No.8, pp.141-152, 2000年10月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.19 No.13, pp.110-111, 明治書院, 2000年11月

D 論文集等に掲載された論文

- 「今昔物語集における和漢の対語の意味対立—(奇異)〈微妙〉を例として—」, 遠藤好英 編 『語から文章へ』, pp.17-30, 「語から文章へ」編集委員会, 2000年8月

3 上記以外の所内業務

A. 研究所主催行事の企画・運営

- ことばフォーラム, 企画広報委員会委員

I. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 企画広報委員会委員
- 『日本語科学』, 編集委員

4 所外活動

I. 学会活動

- 国語学会庶務委員長
- 査読 国内雑誌3件

山田貞雄 (国語辞典編集室主任研究官)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語研究に現れる術語の語誌的研究
- 国語辞典編集室コーパスの作成
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ13「ことば」を調べる考える』, 問答 5 件
- 『国語研の窓』 1 件

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「日中近代学術用語の創出と伝播」, 2001 年 2 月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 協力
- 『新「ことば」シリーズ』, 編集刊行委員

小椋秀樹 (国語辞典編集室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 国語辞典編集室コーパスの作成
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ13「ことば」を調べる考える』, 解説 1 件, 問答 1 件, 2001 年 3 月

B 所員が執筆・編集した単行本

- 「明治期往来物の国語学的研究」, (大阪大学提出博士学位論文), 2001 年 3 月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 前川喜久雄, 籠宮隆之, 小磯花絵, 小椋秀樹, 菊池英明: 「日本語話し言葉コーパスの設計」, 『音声研究』 Vol.4 No.2, pp.51-61, 音声学会, 2000 年 8 月
- 「明治期往来物の依頼表現—「〜べく候」の衰退をめぐって—」, 『語文』 No.75・76, pp.47-56, 大阪大学国語国文学会, 2001 年 2 月

D 論文集等に掲載された論文

- 「書簡文研究資料としての『女子書翰文』」, 『前田富祺先生退官記念論集日本語日本文学の研究』, pp.123-130, 前田富祺先生退官記念論集刊行会, 2001年3月

E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 「話し言葉コーパスの単位認定規準について」, 『話し言葉の科学と工学ワークショップ講演予稿集』, pp.21-28, 2001年2月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所発行物の企画・編集

- 「国立国語研究所研究活動一覧」, 作成委員会委員

山口昌也 (国語辞典編集室研究員)

1 担当研究・事業課題名(科研費も含む)

- 国語辞典編集室コーパスの作成
- 科学研究費補助金 奨励研究(A) 意味解析用辞書の構築における用例分析プラットフォームに関する研究(代表者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築(分担者)

2 成果公表活動

E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 「多義動詞用例の分類結果に基づいた語義の規定手法」, 『情報処理学会研究報告 2001-NL-142』 Vol.2001 No.20, pp.67-74, 情報処理学会, 2001年3月

日本語教育センター

柳澤好昭 (第1研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 学習手段選択時代の日本語教育に関する国際共同研究
- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/「日本語教育年鑑」の作成
- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/インターネットによる日本語教育研究ネットワークの構築
- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/日本語教育研究連絡協議会の開催
- 中等教員派遣前研修
- 日本語教育研修の内容・方法と評価に関する研究
- 日本語教育相互研修ネットワーク
- 日本語教育長期専門研修
- 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究 (協力者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 日本語教育遠隔研修システム (WebSTER) の研修効果の研究 (代表者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語教育年鑑 2000 年版』, 2000 年 6 月
- 『新「ことば」シリーズ 13「ことば」を調べる考える』, 解説 1 件, 問答 1 件, 2001 年 3 月

3 上記以外の所内業務

A. 研究所主催行事の企画・運営

- ネットワーク委員会
- 移転検討委員会ワーキンググループ

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『日本語教育論集』, 編集

4 所外活動

イ. 学会活動

- 調査研究委員会委員長

ウ. 教育活動

- 高知大学特別集中講義「日本語学Ⅱ」非常勤講師
- 朝日カルチャーセンター講師
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター文部省 REX 事業講師

5 その他

- (社) 日本語教育学会情報メディアシンポジウム第四分科会
- 大田区役所日本語ステップアップ講座講師
- 東大和市役所日本語ボランティア講座講師

小河原義朗 (第1研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 学習手段選択時代の日本語教育に関する国際共同研究
- 言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
- 中等教員派遣前研修
- 日本語教育研修の内容・方法と評価に関する研究
- 科学研究費補助金 奨励研究 (A) 外国人なまりに対する日本人評価の社会心理学的・実験音声学的研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 双方向通信による遠隔日本語学習支援システムの研究 (研究分担者)
- 科学研究費補助金 特定領域研究 (A) 高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究 (研究協力者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問」, 問答1件, 2001年3月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「日本語教育学のすすめ」(齋藤孝滋編「日本語研究のすすめ」), 『国文学解釈と鑑賞』 Vol.66 No.1, pp.180-181, 至文堂, 2001年1月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 「外国人日本語学習者の日本語発音不安尺度作成の試み (2)」, 『日本教育心理学会第42回総会発表論文集』, p.167, 2000年9月
- 「日本語非母語話者の話す日本語の発音に対する日本人の評価意識—日本人大学生の場合—」, 『日本語教育方法研究会誌』 Vol.8 No.1, pp.28-29, 2001年3月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第8回国際シンポジウム専門部会「多言語環境下での年少者日本語教育を考える」, 司会

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 作成委員会委員

5 その他

- 「学習者の発音の自己矯正とその指導」盛岡にほんごくらぶ定例勉強会講師, 盛岡国際交流プラザ, 2000年10月

熊谷智子 (第2研究室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (A)(2) 年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語とフランス語—音声と非言語行動』, 2001年3月
- 『新「ことば」シリーズ13「ことば」を調べる考える』, 解説1件, 2001年3月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「言語行動分析の観点 - 「行動の仕方」を形づくる諸要素について-」, 『日本語科学』 No.7, pp.95-113, 国立国語研究所, 2000年4月

3 上記以外の所内業務

A. 研究所主催行事の企画・運営

- 第8回国際シンポジウム専門部会「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス: 対照言語学・日本語教育への応用」, 司会

I. 研究所刊行物の企画・編集

- 「総合シラバス」刊行物準備委員
- 『日本語科学』, 編集委員

4 所外活動

I. 学会活動

- 査読 国内雑誌 8件

宇佐美 洋 (第3研究室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 学習手段選択時代の日本語教育に関する国際共同研究
- 言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 日本語教育のためのアジア諸言語の対訳作文データの収集とコーパスの構築 (代表者)
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費: データベース 日本語学習者による日本語作文と, その母語訳との対訳コーパス (代表者)
- 科学研究費補助金 奨励研究 (A) タイ語・カンボジア語の韻律パタンの対照と, 日本語教育への応用 (代表者)
- 科学研究費補助金 特別研究促進費 我が国の公的試験における得点等化の導入に向けた心理・教育測定学的研究 (分担者)

- 東京外国語大学 AA 研重点共同研究プロジェクト-音韻に関する通言語的研究 (共同研究員)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース』(CD-ROM), 2001年3月
- 前田(宇佐美) 洋 編 『日本語教育のためのアジア諸言語の対訳作文データの収集とコーパスの構築』(平成11-12年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書), p.233, 2001年3月
- 『マイベンライ-タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察その2』, 2000年11月
- 『新「ことば」シリーズ14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答1件, 2001年3月
- 『国語研の窓』3件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「日本語学習者の作文に対する論理構造タグ付与の試み」, 『日本語教育のためのアジア諸言語の対訳作文データの収集とコーパスの構築』(平成11-12年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書), pp.200-209, 国立国語研究所, 2001年3月
- 「平成11年(自1月～至12月)国語国文学界の動向<国語学> 現代語(音韻・文字・表記)」, 『文学・語学』No.169, pp.112-113, 全国大学国語国文学会, 2001年3月

E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 「統語境界の表示にかかわる韻律的特徴—タイ語・カンボジア語における音節可塑性の比較—」, 『日本言語学会第120回大会予稿集』(千葉大学), pp.18-23, 日本言語学会, 2000年6月
- 「アジア諸国の日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース」, 『2000年度日本語教育学会秋季大会予稿集』(名古屋外国語大学), pp.269-270, 日本語教育学会, 2000年10月
- 山本いずみ, 竹内宣勝, 宇佐美 洋, 土屋千尋: 「受ける授業から活動する授業へ—ビデオ制作による自己表現は日本語授業の一形式となり得るか?—」, 『日本語教育方法研究会誌』(国立国語研究所) Vol.8 No.1, pp.8-9, 日本語教育方法研究会, 2001年3月

F 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- 宇佐美 洋, 土屋千尋: 「日本事情教育における日本人・留学生共同作業のもつ意味—日本事情教育からコミュニケーション教育へ—」, 平成12年度日本語教育学会 第1回研究会, 名古屋淑徳大学, 2000年6月
- 「日本語学習者の作文に対する論理構造タグ付与の試み」, 第五回国際日本語教育・日本研究シンポジウム, 香港中文大学, 2000年11月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- ことばフォーラム, 企画広報委員会委員
- 第4回ことばフォーラム 「日本語を学ぶ・日本語で暮す」, 事務局
- 第8回国際シンポジウム専門部会 「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス: 対照言語学・日本語教育への応用」, 事務局

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 企画広報委員会委員

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 「日本留学試験」調査研究協力者会議日本語専門小委員会委員

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 1 件

5 その他

- 「日本留学試験」日本語科目アイテムライター研修会講師
- 「日本留学のための新たな試験について」パネリスト, 国立大学日本語教育研究協議会「日本語・日本事情」部会, 名古屋大学, 2000 年 10 月

井上 優 (第 4 研究室主任研究官)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究 (協力者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 井上 優, 黄 麗華: 「中国における外来語事情」, 国立国語研究所 編 『白書, 広報誌等における外来語の実態 (本編)』, pp.74-78, 2000 年 5 月
- 『新「ことば」シリーズ 13 「ことば」を調べる考える』, 解説 1 件, 問答 2 件, 2001 年 3 月
- 『国語研の窓』 2 件

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「「個別言語研究」と「対照研究」」, 北京外国語大学国際交流学院 編 『漢日語言研究論文集』 Vol.3, pp.12-23, 北京出版社, 2000 年 6 月
- 井上 優, 黄 麗華: 「否定から見た日本語と中国語のアスペクト」, 『現代中国語研究』編集委員会 編 『現代中国語研究』 Vol.1, pp.112-122, 朋友書店, 2000 年 10 月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 井上 優, 黄 麗華: 「日本語・中国語の否定とアスペクト」, 中日対照言語学シンポジウム, 北京大学, 2000 年 5 月
- 「文法的意味のカテゴリーの再検討ー方言・外国語との対照から見えてくることー」, 日本語文法学会設立記念シンポジウム, 京都教育大学, 2000 年 12 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第 4 回ことばフォーラム 「日本語を学ぶ・日本語で暮す」, 企画, 運営

- 第8回国際シンポジウム専門部会「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス：対照言語学・日本語教育への応用」, 司会

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『国語研の窓』, 企画広報委員会委員
- 『新「ことば」シリーズ』, 編集刊行委員

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 国際交流基金 北京日本学研究中心在職日本語教師修士課程試問委員

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 6件
- 日本語文法学会 学会誌編集委員

ウ. 教育活動

- 神田外語大学 非常勤講師
- 北京日本学研究中心 派遣教授

日本語教育センター・日本語教育指導普及部

石井恵理子 (日本語教育研修室室長)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 学習手段選択時代の日本語教育に関する国際共同研究
- 中等教員派遣前研修
- 日本語教育研修の内容・方法と評価に関する研究
- 日本語教育相互研修ネットワーク
- 日本語教育長期専門研修
- 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 日本語教育遠隔研修システム (WebSTER) の研修効果の研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 日本語教育を必要とする児童生徒の生活環境・日本語習得・第一言語保持／喪失の関係 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 専門分野別漢字語彙教材データベース開発に関する研究 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語ボランティアシンポジウム'99 報告書 あなたならどうする, こんな場合 日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会 (名古屋会場) 報告書』, 日本語教育研修室, 2000年7月
- 『日本語教育相互研修ネットワーク資料 東海日本語ネットワーク活動報告書 第5号 1999年～2000年』, 日本語教育研修室, 2000年7月
- 『シンポジウム「ウチ」と「ソト」を結ぶ日本語教育—平成12年度日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会 (函館会場) 報告書—』, 日本語教育研修室, 2001年3月
- 『日本で暮らす外国人の日本語学習を考えるフォーラム—平成12年度日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会 (大阪会場) 報告書—』, 日本語教育研修室, 2001年3月
- 石井恵理子, 林 さと子: 「複数の視点から見た日本語クラス」, 『科学研究費補助金「教室における異文化間コミュニケーションの評価に関する研究」研究成果報告書』, pp.19-31, 2001年3月
- 石井恵理子, 清水百合, 林さと子, ロラン=マリー・ジョゼ: 石井恵理子 編 『教室における異文化間コミュニケーションの評価に関する研究』 (科学研究費補助金研究成果報告書), 2001年3月
- 『日本語教育年鑑2000年版』, 2000年6月
- 『新「ことば」シリーズ14「言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問』, 問答1件, 2001年3月
- 『国語研の恋』 1件

B 所員が執筆・編集した単行本

- 加納千恵子, 清水百合, 竹中 (谷部) 弘子, 阿久津智, 石井恵理子, 平形裕紀子: 加納千恵子 編 『専門分野別漢字語彙教材データベース開発に関する研究』 (科学研究費補助金平成9年度～12年度報告書), 筑波大学, 2001年3月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.19 No.7, pp.120-121, 明治書院, 2000年6月
- 「どうして, どうして?」, 全国学童保育連絡協議会 編 『日本の学童保育』, p.38, 一声社, 2000年8月
- 「子供たちの未来をひらくことばの教育を進めるために」, 財団法人入管協会, 法務省入国管理局 編 『国際人流』 No.159, pp.17-19, 財団法人入管協会, 2000年8月

- 「この人この一冊－国際的な人の流れを考えるために－」, 財団法人入管協会, 法務省入国管理局 編 『国際人流』 No.162, pp.52-53, 財団法人入管協会, 2000年11月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.19 No.14, pp.104-105, 明治書院, 2000年12月
- 「割り込み場面に関する言語行動意識－異文化社会での滞在期間を視点とした分析－」, 学習院大学国語国文学会 編 『学習院大学国語国文学会誌』 No.44, pp.104-91, 学習院大学国語国文学会, 2001年3月

D 論文集等に掲載された論文

- 「新聞に使われている国際関係の漢字語彙の使用傾向」, 「専門分野別漢字語彙教材データベースの開発」研究会 編 『文部省科学研究費補助金による専門分野別漢字教育に関する研究報告会予稿集』, pp.31-38, 筑波大学, 2000年7月
- 「外国人児童生徒に対する教育の充実に向けた教員研修の課題」, 文部省大臣官房調査統計企画課 編 『教育と情報』 No.509, pp.8-13, 第一法規出版, 2000年8月
- 「21世紀の日本語教育のあり方」, 財団法人NHK放送研修センター 編 『現場から考える「21世紀の日本語教育」－NHK-CTI「日本語教師養成セミナー」開設10周年記念フォーラム：現場から考える「21世紀の日本語教育」実施報告書－』, 財団法人NHK放送研修センター, 2000年11月
- 「衛星通信を活用した日本語教師研修の可能性」, 文化庁文化部国語課 編 『衛星通信を活用した日本語教育の推進』, pp.64-66, 文化庁文化部国語課, 2000年11月

F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「子どもの言語教育に関する在日外国人父母の意識」, 第6回社会言語学会大会 シンポジウム「滞日ニューカマーの言語習得と日本語学習」, 中京大学, 2000年9月
- 第4回ことばフォーラム「日本語を学ぶ・日本で暮らす」分科会, 2000年11月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第4回ことばフォーラム「日本語を学ぶ・日本語で暮らす」, 企画
- 第8回国際シンポジウム専門部会「多言語環境下での年少者日本語教育を考える」, 企画, パネルディスカッション司会

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『日本語教育論集』, 編集委員

4 所外活動

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 4件
- 日本語教育学会研修委員会委員
- 日本語教育学会評議員
- 日本語教育調査研究委員会第2小委員会委員

ウ. 教育活動

- 学習院大学大学院人文科学研究科非常勤講師
- 文部省教育助成局海外子女教育課(2001年1月より「文部科学省初等中等教育局国際教育課に組織換え)海外子女教育専門官(2000年4月～)

5 その他

- 「各都道府県・政令都市における施策の現状と課題」平成12年度帰国子女・外国人子女教育担当指導主事研究協議会指導・助言, 文部省, 2000年5月
- 「外国人子女等に対する日本語指導について」平成12年度帰国子女教育・外国人子女教育研究協議会全体講演, 文部省, 2000年7月
- 「総合的学習活動としての漢字指導」国際交流基金クアラルンプール日本語教育セミナー講演, クアラルンプール(マレーシア), 2000年7月
- 「日本語力評価法」事例発表」平成12年度外国人子女等日本語指導講習会(文部省)講演および指導・助言, 財団法人海外職業訓練協会, 2000年7月, 8月
- 「衛星通信を利用した教員研修」平成12年度文化庁「日本語教育衛星通信講座」ファシリテータ, 東京工業大学, 2000年11月

杉本明子 (日本語教育研修室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 中等教員派遣前研修
- 日本語教育研修の内容・方法と評価に関する研究
- 日本語教育相互研修ネットワーク
- 日本語教育長期専門研修
- 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 日本語教育遠隔研修システム (WebSTER) の研修効果の研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 奨励研究 (A) 日本語教育へのコンピュータ・ネットワーク導入の効果に関する研究 (代表者)

2 成果公表活動

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 文野峯子, 杉本明子: 「短大生の短期アメリカ研修の効果に関する研究—アメリカ人のステレオタイプと英語力の自己評価への影響—」, 『留学生教育』 No.4, pp.69-82, 2000年9月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 「『対話と学習』に関する研究方法の考察—包括的理論枠組と対話過程の分析— (日本教育心理学会準備委員会企画シンポジウム「言語・認知研究の新しいスタイル」)」, 『日本教育心理学会第42回総会発表論文集』, pp.S18-S19, 2000年9月
- 杉本明子, 黒沢学, 文野峯子, 大島陽子: 「在日留学生の日本語習得と社会・心理的要因との関係性」, 『第6回社会言語科学会研究大会予稿集』, pp.7-12, 2000年9月
- 杉本明子, 黒沢学: 「在日留学生の日本語習得(1)—日本語学習動機と日本語能力—」, 『日本教育心理学会第42回総会発表論文集』, p.73, 2000年9月
- 杉本明子, 黒沢学: 「在日留学生の日本語習得(2)—日本人との接触と心理的距離—」, 『日本教育心理学会第42回総会発表論文集』, p.74, 2000年9月
- 杉本明子, 黒沢学, 文野峯子, 大島陽子: 「在日留学生の日本語習得への社会・心理学的アプローチ—日本語能力、心理的距離、接触、属性の関係性—」, 『2000年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, pp.244-249, 2000年10月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「留学生の日本語習得への社会・心理学的アプローチ—質問紙調査と日本語教育事情の統計資料に基づいて—」, 獨協大学日本語教育講演会, 2001年1月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第8回国際シンポジウム専門部会「多言語環境下での年少者日本語教育を考える」, 司会

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『日本語教育論集』, 編集委員

4 所外活動

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 5 件

菅井英明 (日本語教育研修室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 中等教員派遣前研修
- 日本語教育研修の内容・方法と評価に関する研究
- 日本語教育相互研修ネットワーク
- 日本語教育長期専門研修
- 「我が国の公的試験における得点等化の導入に向けた心理・教育測定学的研究特別研究促進費」(研究代表者 村上隆・名古屋大学)(研究協力者)

2 成果公表活動

B 所員が執筆・編集した単行本

- 菅井英明, 葛駿鋒: 「シンガポールの大学における留学生受け入れ態勢と日本語教育事情」, 鹿島英一 編 『国際交流教育概論 アジア・オセアニア編』, pp.53-74, 洋楽堂書店, 2000 年

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「シンガポール華人廟における神々の意味の変容と喪失 (比較文化研究 1999 44号 32 - 41 頁の同論文を採録)」, 『中国関係論説資料』, pp.96-101, 2000 年

D 論文集等に掲載された論文

- 「私達はなぜ日本語を教えられるのか」, 『第1回日本研究・台日関係・日本語教育国際学術検討会論文集』, pp.357-367, 中国文化大学 台湾, 2000 年

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「台湾における日本語の地位とその将来」, 第8回国際シンポジウム「東アジアにおける日本語観国際センサス」, 2000 年 9 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第8回国際シンポジウム専門部会「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス：対照言語学・日本語教育への応用」, 司会

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 『第2回 ～地球市民の集い～ 多文化共生 in 長崎 ―平成11年度日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会(長崎会場) 報告書―』 編集
- 『国立国語研究所報告 117 担当刊行物』 検討委員会 委員
- 『日本語教育論集』, 編集委員

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 「日本留学のための新たな試験」調査研究協力者会議 日本語専門小委員会委員

5 その他

- 日本留学試験 アイテムライター研修会 講師 国際教育協会主催(11月 神戸と東京)

早田美智子 (日本語教育研修室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/「日本語教育年鑑」の作成
- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/日本語教育関係資料の収集提供
- 国内外の日本語教育に関する情報の収集と発信/日本語教育研究連絡協議会の開催

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語教育年鑑 2000年版』, 2000年6月

3 上記以外の所内業務

ウ. 研究支援等

- 日本語教育センター関係機関リスト作成保守

福永由佳 (日本語教育教材開発室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 日本語学習の内容と方法に関する開発的研究 ―日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成―

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語研の窓』 2 件

B 所員が執筆・編集した単行本

- 札野寛子, 深澤のぞみ, 能波由佳: 『科学記述基礎日本語 留学生・技術研修生のための使える日本語 - 読解編』, 金沢工業大学, 2000 年 8 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 武田誠, 土井真美, 永山友子, 能波由佳: 「「接触場面」談話における「確認」」, 『日本語教育方法研究会誌』 Vol.7 No.1, pp.24-25, 2000 年 4 月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 能波由佳: 「映像を使ってできること」, 第 4 回ことばフォーラム「日本語を学ぶ・日本で暮らす」, 2000 年 11 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第 8 回国際シンポジウム専門部会「多言語環境下での年少者日本語教育を考える」, 協力
- 第 8 回国際シンポジウム専門部会「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス: 対照言語学・日本語教育への応用」, 協力
- 平成 12 年度 公開研究発表会, 協力

イ. 研究所刊行物の企画・編集

- 日本語教育指導参考書 22 「日本語教育のための文法用語」 編集
- 「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」 報告書 企画・編集
- 『日本語教育年鑑 2000 年版』 協力
- 日本語教育指導参考書・日本語教育映画基礎編・日本語教育映像教材中級編および初級編の管理
- 「日本語教育のための文法用語」 刊行物検討委員会
- 「総合シラバス」 刊行物準備委員会

ウ. 研究支援等

- 平成 12 年度第 2 回「日本語によるビジネス・コミュニケーション研究会」講師
- 日本語教育映像教材初級編検討会 主宰

4 所外活動

イ. 学会活動

- 全国語学教育学会日本語教育研究部会論集委員

植木正裕 (日本語教育教材開発室研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)

- 日本語学習の内容と方法に関する開発的研究 —日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成—

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営

- 第4回ことばフォーラム「日本語を学ぶ・日本語で暮す」, 分科会「映像をつかってできること」副担当
- 日本語教育映像教材「初級編」検討会
- 日本語教育における視聴覚教材の利用に関する懇談会
- 第8回国際シンポジウム専門部会「多言語環境下での年少者日本語教育を考える」, 協力
- 第8回国際シンポジウム専門部会「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス：対照言語学・日本語教育への応用」, 司会

5 その他

- 文化庁日本語教育大会の分科会での事例報告, 2000年8月

平成12年度

研究部会議・研究発表一覧

所内委員会委員一覧

見学者一覧

招へい研究員一覧

非常勤研究員等一覧

外国人研究員等受入一覧

外国出張一覧

平成12年度研究部会議・研究発表一覧

氏名	発表題目
小河原義朗	「日本語音声教育研究と教育現場への応用」
田中牧郎	「国語に関する世論調査（問題別分析報告）」
佐渡島紗織	「白書、広報誌等における外来語の実態」
尾崎喜光	「方言音声使用の場面的多様性—山形県鶴岡市での調査から—」
山口昌也	「機械翻訳システムにおける利用者と協調処理について」
前川喜久雄	「融合研究『話し言葉』の概要と現状」
籠宮隆之	「『話し言葉コーパス』のための音声映像資料の収録」
小磯花絵	「話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく 『話し言葉工学』の構築—音声書き起こし作業—」
小椋秀樹	「話しことばコーパスの単位について」
池田理恵子・辻野都喜江	「国立国語研究所新聞記事データベース—『切抜集』と 「見出しデータベース」と「本文画像データベース」—」
笹原宏之・小沼悦	「『現代雑誌200万字言語調査』における文字・表記調査について」
柏野和佳子	「『分類語彙表』の増補の概要と進捗報告 —言語資料の構築・管理・所内利用に関する報告—」
宇佐美洋	「日本語学習者の作文に対する論理構造タグ付与の試み」
菅井英明	「技術、知識、能力—日本語教育において何が評価の対象となるのか—」
植木正裕	「統合型解析システムとコーパス作成支援」
嶋村直己	「教育基本語彙データベースの1活用事例—漢字のカバー率について」
相澤正夫・笹原宏之	「報告書『日本語の文字・表記』（仮題）の刊行について」
福永由佳・井上優	「『日本語教育指導参考書22』日本語教育のための 文法用語（仮題）の刊行について」

熊谷智子 「日本語と外国語の対照研究区『日本語とフランス語
—音声と非言語行動—』（仮題）刊行について」

福永由佳・植木正裕
「日本語教育教材開発室の蓄積資料の利用可能性について」

平成12年度所内委員会委員一覧 (◎印：委員長 ○印：副委員長 ※印：庶務部職員)

移転整備計画推進委員会

◎甲斐睦朗 杉戸清樹 相澤正夫 江川清 加藤安彦 前川喜久雄
 熊谷康雄 伊藤雅光 柳澤好昭 石井恵理子 桐岡博道* 原國正*
 白數進*

移転整備計画推進委員会基本計画専門部会

相澤正夫 加藤安彦 前川喜久雄 熊谷康雄 伊藤雅光 柳澤好昭
 石井恵理子 白數進*

中期計画等検討ワーキンググループ

◎甲斐睦朗 ○杉戸清樹 相澤正夫 江川清 熊谷康雄 加藤安彦
 前川喜久雄 伊藤雅光 石井恵理子 桐岡博道*

将来計画委員会

◎杉戸清樹 加藤安彦 熊谷康雄 横山詔一 嶋村直己 前川喜久雄
 塚田実知代 吉岡泰夫 三井はるみ 田中牧郎 井上優 入江久男*
 齋藤良雄* 庄司喜久夫*

大学院設置検討委員会

◎甲斐睦朗 相澤正夫 杉戸清樹 横山詔一 佐々木倫子 柳澤好昭
 石井恵理子 桐岡博道* 原國正* 白數進*

ネットワーク委員会

◎江川清 熊谷康雄 前川喜久雄 柳澤好昭 山崎誠 横山詔一

『国立国語研究所研究活動一覧』作成委員会

◎杉戸清樹 大西拓一郎 小河原義朗 小椋秀樹 尾崎喜光 小高京子
 小沼悦

国立国語研究所『日本語科学』編集委員会 (*印：平成12年10月まで)

◎江川清* ◎伊藤雅光 井上優* 大島資生 尾崎喜光 加藤安彦
 熊谷智子 鈴木美都代 田中牧郎* 塚田実知代 藤井聖子* 山田進
 横山詔一

『新「ことば」シリーズ』編集刊行委員会

◎杉戸清樹 石井恵理子 磯部よし子 井上優 笹原宏之 三井はるみ
 山田貞雄 米田純子

企画広報委員会 (*印：平成13年1月から)

◎田中牧郎 小磯花絵 中山典子 宇佐美洋 井上優* 小高京子*
 桐岡博道* 原國正* 白數進* 江川清 (顧問)

国立国語研究所国際シンポジウム企画委員会

◎甲斐睦朗 相澤正夫 江川清 佐々木倫子 杉戸清樹 吉岡泰夫
米田正人 桐岡博道* 原國正* 白數進*

第8回国立国語研究所国際シンポジウム事務局

磯部よし子 塚田実知代

図書委員会（*印：平成13年1月から）

◎相澤正夫 井上文子 小椋秀樹 熊谷智子 當眞千賀子 新野直哉
早田美智子 三井はるみ◎吉岡泰夫* 尾崎喜光* 笹原宏之* 小河原義朗*
杉本明子*

レクリエーション委員会

◎米田正人 三井はるみ 辻野都喜江 杉本明子 杉本文也* 渋谷進*

刊行物等検討委員会

◎江川清 相澤正夫 吉岡泰夫 大西拓一郎 池田理恵子
沢木幹栄（所外委員）

平成12年度所内見学者一覧

※ 以下にあげたものは、公的な依頼を受けたものである。
そのほかにも、国の内外から随時来訪者があり、関係する研究職員が対応した。

見 学 日

見 学 者

平成12年

5月25日 福井県鯖江東陽中学校生徒(8名)

8月 1日 国際交流基金 日本語国際センター
北京日本学研究中心日本語教師研修生
および随行幹部 (25名)

平成13年

2月 7日 板橋区立志村第一中学校生徒(6名)

平成12年度招へい研究員一覧

氏名 / 国籍	所属 / 期間
カネギ・ルース (アメリカ合衆国)	オレゴン大学東アジア言語・文学部助教授 平成11年4月1日～平成12年8月31日
ポリー・ザトラウスキー (アメリカ合衆国)	ミネソタ大学アジア・スラブ語研究所准教授 平成12年5月13日～平成12年7月18日
朱 京偉 (中華人民共和国)	北京日本語学研究センター大学院客員教授 平成12年7月20日～平成13年3月19日
ヴォルフラム・シャッフアー (ドイツ)	平成12年8月1日～平成13年3月31日
大原由美子 (日本国)	米国ハワイ大学東アジア言語文学部助手 平成12年9月1日～平成13年7月31日
ベラ・ポドレスカヤ (ロシア)	国立ロシア人文大学文化人類学研究所副所長・教授 平成12年12月3日～平成13年3月25日

平成12年度非常勤研究員等一覧

言語体系研究部

第2研究室

非常勤研究員

石井久雄

非常勤研究員

松田美香

言語行動研究部

第2研究室

非常勤研究員

籠宮隆之

非常勤研究員

菊地英明

〃

土屋菜穂

〃

榎 洋一

〃

斉藤美紀

〃

木村睦子

〃

竹澤寿幸

〃

田中穂積

〃

徳永健伸

〃

河原達也

〃

山本幹雄

〃

荻野孝野

〃

淵 武志

〃

北 研二

〃

佐野 洋

〃

石井正彦

〃

伊藤克亘

〃

宮島達夫

〃

西川賢哉

〃

伝 康晴

〃

山口聖子

〃

間淵洋子

〃

山田和久

〃

石塚京子

研究補佐員

北川智利

研究補佐員

阿佐美厚子

研究補佐員

河西秀早子

〃

兵藤銀河

言語変化研究部

第1研究室

非常勤研究員

佐藤亮一

非常勤研究員

篠崎晃一

嘱託研究員

白沢宏枝

言語教育研究部

非常勤研究員

松井直之

情報資料研究部

電子計算機システム開発室

非常勤研究員

エリク・ロング

国語辞典編集室

非常勤研究員

本多久美子

非常勤研究員

奥村大志

〃

石山順子

〃

中尾比早子

〃

小木曾智信

〃

吉川明日香

日本語教育センター

事務補佐員

佐渡島沙織

事務補佐員

篠崎佳子

〃

鈴木理子

第2研究室

非常勤研究員

沢木幹栄

非常勤研究員

小出いずみ

第4研究室

非常勤研究員 生越直樹
" 星 泉

非常勤研究員 木村英樹
" 鷺尾龍一

日本語教育指導普及部

日本語教育研修室

非常勤研究員 衣川敦子
" 富谷玲子
教務補佐員 竹田麻衣
事務補佐員 今井祥子

" 下平菜穂
" 渡邊良子
事務補佐員 時田真理

日本語教育教材開発室

非常勤研究員 江原恵理子
" 水野千佳子
" 武田 誠
" 金子史朗
" 若川祥子
事務補佐員 古田浩之

非常勤研究員 櫻木紀子
" 中道真木男
" ピョートル・トマルキン
" 玉置亜衣子
" トルセノ・アルピマニュー
・シンギ

平成12年度外国人研究員等受入一覧

(新規受入者および平成12年度在籍外国人研究員等を含む)

氏名 / 国籍	所属 / 期間	指導教官
上野田鶴子 (日本国)	東京女子大学現代文化部教授 平成12年4月1日～平成13年3月31日	佐々木倫子
宮城紀美 (日本国)	平成12年4月3日～平成13年5月2日	佐々木倫子
聖田京子 (アメリカ合衆国)	ハワイ大学東アジア言語文学科教授 平成12年5月18日～平成12年7月10日	佐々木倫子
ポーリー・ザトラウスキー (アメリカ合衆国)	ミネソタ大学アジア・スラブ語研究所准教授 平成12年7月19日～平成13年8月31日	佐々木倫子
沖 裕子 (日本国)	信州大学人文学部助教授 平成12年9月1日～平成13年2月28日	吉岡泰夫
カネギ・ルース (アメリカ合衆国)	オレゴン大学東アジア言語・文学部助教授 平成12年10月1日～平成13年8月2日	石井恵理子
パトリシア・J・ ウエッツエル (アメリカ合衆国)	ポートランド州立大学人科学部 外国語学科教授 平成13年1月15日～平成13年4月15日	杉戸清樹
車 口京 (大韓民国)	中央大学校日本研究所常任研究員 平成13年1月15日～平成14年2月8日	尾崎喜光
林 鍾守 (大韓民国)	徐羅伐大学副教授 平成13年3月31日～平成14年2月28日	山崎 誠

平成12年度外国出張一覧

※ 以下にあげたものは、公費による出張のみである。

氏名	用務 / 用務先 / 期間
前川喜久雄	「LREC2000」(国際言語資源会議)へ出席 ギリシャ 平成12年5月29日～平成12年6月4日 「ICSLP2000」での発表 中華人民共和国 平成12年10月16日～平成12年10月21日
吉岡泰夫	Asian Business Language Workshopでの発表 アメリカ合衆国 平成12年6月27日～平成12年7月4日
佐々木倫子	第7回国際語用論学会 ハンガリー 平成12年7月9日～平成12年7月15日 「日本語教師のためのセミナー」講師 大韓民国 平成12年7月15日～平成12年7月23日
ロラン・ マリージョゼ	調査研究 カナダ 平成12年7月10日～平成12年7月31日
當眞千賀子	研究成果発表と調査及び資料収集 ブラジル、アメリカ合衆国 平成12年7月14日～平成12年7月30日
石井恵理子	漢字語彙教材開発に関する研究発表及び研究報告会出席 マレーシア連邦 平成12年7月20日～平成12年7月24日 韓国日本学会国際シンポジウム出席 大韓民国 平成12年11月23日～平成12年11月26日

- 米田正人 日中コミュニケーション国際シンポジウムに出席
中華人民共和国
平成12年8月10日～平成12年8月14日
- 加藤安彦 「EAJS」での研究発表
フィンランド
平成12年8月22日～平成12年8月28日
- 宇佐美 洋 研究打ち合わせと調査
モンゴル共和国
平成12年9月16日～平成12年9月20日
- 研究打ち合わせと調査
カンボジア
平成12年9月24日～平成12年10月1日
- 第5回国際日本語教育・日本シンポジウムでの発表及び研究打ち合わせ
中華人民共和国
平成12年11月24日～平成12年11月28日
- 小河原義朗 日本語作文とその母語訳収集のための研究打ち合わせ
及び日本語教育実態調査
シンガポール・ベトナム
平成12年9月24日～平成12年10月1日
- 日本語作文とその母語訳収集のための研究打ち合わせ
及び日本語教育実態調査
フィリピン
平成12年10月10日～平成12年10月14日
- 日本語教育環境調査のための予備調査
タイ
平成13年3月19日～平成13年3月22日
- 菅井英明 資料及び情報収集
平成12年9月24日～平成12年10月1日
シンガポール・ベトナム
- 日本語作文とその母語訳収集のための研究打ち合わせ
及び日本語教育実態調査
フィリピン
平成12年10月10日～平成12年10月14日
- 調査
マレーシア
平成13年2月11日～平成13年2月15日

- 笹原宏之 日本教育学会第61回学術大会（国際シンポジウム）出席と研究打ち合わせ
大韓民国
平成12年11月23日～平成12年11月26日
- 横山詔一 日本教育学会第61回学術大会（国際シンポジウム）出席と研究打ち合わせ
大韓民国
平成12年11月23日～平成12年11月26日
- 「外国人日本語教育指導者養成プログラム」審査のため
マレーシア
平成13年3月1日～平成13年3月5日
- 柳澤好昭 韓国日本学会国際シンポジウム出席
大韓民国
平成12年11月24日～平成12年11月27日
- 日本語教育環境調査のための予備調査
タイ
平成13年3月19日～平成13年3月22日
- 杉戸清樹 「外国人日本語教育指導者養成プログラム」審査のため
インドネシア
平成13年3月1日～平成13年3月5日
- 井上 優 「在職日本語教師に関する」日中合同会議に出席
中華人民共和国
平成13年3月8日～平成13年3月16日
- 小磯花絵 研究打ち合わせ及び調査
アメリカ合衆国
平成13年3月9日～平成13年3月19日

平成12年度
国立国語研究所刊行物一覧

平成12年度国立国語研究所の刊行物

書名	市販品刊行元	刊行年月
年鑑		
『国語年鑑』2000年版	大日本図書	平成12年12月
『日本語教育年鑑』2000年版	くろしお出版	平成12年 6月
国立国語研究所報告		
117 『教育基本語彙の基本研究 —教育基本語彙データベースの作成—』	明治書院	平成13年 3月
日本語と外国語との対照研究		
VIII 『マイペンライ(2): タイ人の言語行動を特徴づける言葉と その文化的背景についての考察 その2』	くろしお出版	平成12年 6月
IX 『日本語とフランス語—音声と非言語行動—』	くろしお出版	平成13年 3月
日本語科学		
『日本語科学』7	国書刊行会	平成12年 4月
『日本語科学』8	国書刊行会	平成12年10月
新「ことば」シリーズ (平成10年度までは文化庁国語課編・大蔵省印刷局刊行)		
13 『「ことば」を調べる考える』	財務省印刷局	平成13年 3月
14 『言葉に関する問答集 —よくある「ことば」の質問—』	財務省印刷局	平成13年 3月
第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書		
『認識のモダリティとその周辺 —日本語・英語・中国語の場合— (第6専門部会 平成12年3月4日開催)』	凡人社	平成12年12月
『談話のポライトネス』 (第4専門部会 平成11年12月4日開催)』	凡人社	平成13年 3月

その他

国立国語研究所資料集 5 『沖縄語辞典』(9刷)	財務省印刷局	平成13年 3月
言語処理データ集8 『テレビ放送の語彙調査(語彙表) CD-ROM版』	大日本図書	平成13年 2月
『日本語教育指導参考書22 日本語教育のための文法用語』	財務省印刷局	平成13年 3月

その他内部資料等

『平成12年度 国立国語研究所公開研究発表会予稿集』		平成12年12月
『現代語複合辞用例集』		平成13年 3月
【日本語教育論集】		
『日本語教育論集』16		平成12年 9月
『日本語教育論集』17		平成13年 3月
【相互研修ネットワーク報告書一覧】		
『東海日本語ネットワーク 活動報告書』5		平成12年 5月
『日本語ボランティアシンポジウム99報告書 あなたならどうするこんな場合』		平成12年 7月
地域研修会(函館会場)報告書 『シンポジウム「ウチ」と「ソト」を結ぶ日本語教育』		平成13年 3月
地域研修会(大阪会場)報告書 『日本で暮らす外国人の日本語学習を考えるフォーラム』		平成13年 3月
地域研修会(長崎会場)報告 『第2回地球市民の集い - 多文化共生in長崎』		平成13年 3月

『国立国語研究所研究活動一覽』
作成委員会

杉戸 清樹

池田理恵子
小河原義朗
尾崎 喜光
小高 京子
山口 昌也

国立国語研究所研究活動一覽（平成12年度）

Annual Report of Research Activities
The National Institute for Japanese Language
April 2000 - March 2001

平成14年3月31日 発行

編集：『国立国語研究所研究活動一覽』
作成委員会

発行：独立行政法人国立国語研究所
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
電話：03(3900)3111（代表）
FAX：03(3906)3530
URL：http://www.kokken.go.jp

(平13-16)